第13回日本リーグ

男子

本田技研鈴鹿が劇的な逆転初優勝

女子　大崎電気が独走でV２を達成

第13回日本リーグは、１月21日から後期が開幕、男子では前期全勝で首位を走っていた湧永製薬が、後期開幕戦で大崎電気に敗れる波乱の幕開けとなった。一方、本田技研鈴鹿は後期快調に勝ち進み、リーグ最終戦で１敗の湧永、２敗の本田が優勝を賭けて対決、見事本田が勝って同点ながら同点間の得失点差により逆転で初優勝を飾った。

一方女子はV２をめざす大崎電気が好調に勝ち進み、混戦をつづける２位以下を尻目に後期リーグ中ばに早々と優勝を決めた。

［順位決定の方法］

①勝点の多いチームが上位

②同点チーム間の勝ち点の多いチーム

③同点チーム間の得失点差の多いチーム

④（全競技の得点）－（全競技の失点）＝多い方

⑤全競技の得点の多い方

〔男子〕

順位		本田	湧永	大崎	日新	三陽	大同	勝	敗	分	勝点	同点間	得点／失点	差
1	本田技研鈴鹿	＼	●16－17 ○20－16	●16－22 ○31－22	○24－22 ○30－19	○24－21 ○30－17	○25－22 ○28－14	8	2	0	16	36／33	244／192	52
2	湧永製薬	○17－16 ●16－20	＼	○28－19 ●20－23	○25－19 ○32－23	○31－20 ○22－20	○20－18 ○30－16	8	2	0	16	33／36	241／194	47
3	大崎電気	○22－16 ●22－31	●19－28 ○23－20	＼	●28－29 ○35－28	○33－17 ○39－22	○27－21 ○31－15	7	3	0	14		279／227	52
4	日新製鋼	●23－24 ●19－30	●19－25 ●23－32	●29－28 ●28－35	＼	○33－31 ○28－26	○21－16 ○28－18	5	5	0	10		250／265	－15
5	三陽商会	●21－24 ●17－30	●20－31 ●20－22	●17－33 ●27－39	●31－33 ●26－28	＼	●25－26 ○30－15	1	9	0	2	55／41	229／281	－52
6	大同特殊鋼	●22－25 ●14－28	●18－20 ●16－30	●21－27 ●15－31	●16－21 ●18－28	○26－25 ●15－30	＼	1	9	0	2	41／55	181／265	－84

〔女子〕

順位		大崎	日ビ	立石	シャト	大和	日立	勝	敗	分	勝点	同点間	得点／失点	差
1	大崎電気	＼	○29－21 ○31－21	○44－27 ○31－21	○29－14 ○33－21	○37－28 ○37－36	○38－26 ○34－27	10	0	0	20		343／242	101
2	日本ビクター	●21－29 ●21－31	＼	●15－23 ○23－19	○31－24 △19－19	○25－18 ○24－19	○16－11 ○23－18	6	3	1	13		218／211	7
3	立石電機山鹿	●27－44 ●21－31	○23－15 ●19－23	＼	○18－20 △14－14	○25－19 ○20－17	○21－18 ○22－14	5	4	1	11		210／215	－5
4	シャトレーゼ	●14－29 ●21－33	●24－31 △19－19	○20－18 △14－14	＼	○22－15 △19－19	△20－20 ○22－17	3	3	4	10		195／215	－20
5	大和銀行	●28－37 ●36－37	●18－25 ●19－24	●19－25 ●17－20	●15－22 △19－19	＼	○22－18 ○30－20	2	7	1	5		223／247	－24
6	日立栃木	●26－38 ●27－34	●11－16 ●18－23	●18－21 ●14－22	△20－20 ●17－22	●18－22 ●20－30	＼	0	9	1	1		189／248	－59

1部男子

本田技研鈴鹿が最終戦で逆転優勝

◇1月21日（土）　山形・東根市民体育館

日新製鋼28〔13―14／15―12〕26三陽商会

〔戦評〕立ち上がり、日新が攻守のバランスがとれ4―1とリードしたが、三陽商会もディフェンスを立て直し、リズムに乗って14―13と逆転して前半を折り返した。

後半、日新は4点を連取して主導権を奪い、追いすがる三陽商会を振り切った。

	日新	得	三陽	得
GK	森田	0	宇田川	0
GK	谷	0	吉田	0
GK			関	0
FP	武田	3	清家	7
FP	西山	9	田口	0
FP	高木	5	大塚	3
FP	甲斐	4	砂川	5
FP	日野	0	山口	5
FP	堀田	3	浜田	1
FP	藤本	3	実方	5
FP	池田	0	河村	0
FP	野中	1	吉原	0
FP	木村	0		
計		28		26
PT		(1)		(2)

（審・中島、高野）

大崎電気23〔11―12／12―8〕20湧永製薬

〔戦評〕湧永は主戦GK・井藤を腰痛で欠きながらも、左腕エース玉村が前半だけで6ゴールをマーク、新鋭GK徐の活躍もあって12―11と大崎を1点リードして折り返す。

しかし、全日本総合で湧永に快勝して自信を持った大崎は、後半に入って宮下、首藤の両主砲が持ち前の強打を　烈させて追撃。GK矢内の再三にわたる好守もあって、後半中ばに16―15と勝ち越し、その後は湧永のミスにも助けられ一気に勝利を握った。

	大崎	得	湧永	得
GK	渡辺	0	徐	0
GK	矢内	0	多田	0
FP	松岡	4	酒巻	1
FP	大和田	1	河原	2
FP	武田	0	玉村	8
FP	首藤	6	堀田	0
FP	中田	3	中川	3
FP	山本	4	長沢	1
FP	越迫	0	荷川取	2
FP	菅田	0	奥田	0
FP	山内	0	楢原	3
FP	宮下	5	鎌塚	0
計		23		20
PT		(2)		(4)

（審・菅野、半田）

◇1月22日（日）　山形・東根市民会館

本田技研鈴鹿31〔18―11／13―11〕22大崎電気

〔戦評〕前日、全勝の湧永を倒した大崎が本田鈴鹿のスピーディな攻守の前に完敗、優勝争いから大きく後退した。

本田鈴鹿は、前半中ば過ぎから大崎のシュートミスを次々と速攻につなげて8点を連取、後半の出だしにも粟屋、立木らで着実にポイントを奪い、10分過ぎには23―12と大きく水をあけ、一気に試合を決めた。

大崎は、本田鈴鹿の積極的なディフェンスの前に本来の破壊力あふれるロング攻撃が不発に終わり要所のノーマークチャンスも本田GK・橋本の果敢なキーピングに阻まれ、反撃の足がかりをつかめなかった。

	鈴鹿	得	大崎	得
GK	大畑	0	渡辺	0
GK	橋本	0	矢内	0
FP	真砂	3	松岡	7
FP	福島	0	大和田	0
FP	藤井	0	武田	0
FP	立木	7	首藤	2
FP	尾上	0	中田	4
FP	内藤	5	山本	4
FP	粟屋	8	越迫	0
FP	田口	4	菅田	0
FP	山本	1	相島	0
FP	山村	3	宮下	5
計		31		22
PT		(2)		(2)

（審・菅野、半田）

三陽商会30〔16―5／14―10〕15大同特殊鋼

〔戦評〕今リーグまだ1勝もあげていない三陽だが、この試合は大同を前半から圧倒、大差をつけて初白星をあげた。

前半立ち上がり、両チームともにシュートミスが多く、10分を経過して4―1と三陽リードのロースコアー。大同は全くシュートを決められず、僅かPTの1本しか得点出来ない。中盤から三陽は清家を中心に確実にシュートを決め始め、リズムがつかめないままの大同をじりじりと引き離し、前半で16―5と大差をつけ勝負を決めてしまった。

	三陽	得	大同	得
GK	宇田川	0	上村	0
GK	吉田	0	秋吉	0
GK	関	0		
FP	清家	7	田中	1
FP	田口	0	内藤	2
FP	大塚	2	高村	2
FP	砂川	6	朝生	2
FP	山口	5	明石	0
FP	浜田	4	河井	0
FP	実方	6	横浜	0
FP	河村	0	佐藤	2
FP	吉原	0	中本	3
FP			名取	3
計		30		15
PT		(3)		(3)

（審・上久保、北井）

◇1月28日（土）　岐阜・岐阜県民体育館

湧永製薬32〔15―12／17―11〕23日新製鋼

〔戦評〕開始15分までは追いつ追われつの展開だったが、それ以後湧永が徐々に点差をつけ、15―12で前半を終了。

後半に入ると、日新の玉村へのチェックが甘くなり、ロングシュートがたて続けに入る展開となり、湧永が勝利を収めた。

	湧永	得	日新	得
GK	徐	0	森田	0
GK	多田	0	谷	0
FP	酒巻	2	武田	5
FP	河原	8	西山	5
FP	玉村	11	高木	2
FP	堀田	2	甲斐	3
FP	中川	0	日野	2
FP	長沢	4	堀田	3
FP	荷川取	3	藤本	3
FP	奥田	2	池田	0
FP	楢原	0	野中	0
FP	鎌塚	0	木村	0
計		32		23
PT		(5)		(5)

（審・板倉、岩本）

本田技研鈴鹿28〔11―4／17―10〕14大同特殊鋼

〔戦評〕お互いにプレス気味の1・5ディフェンスをしいたが、ロングに決定打を欠く大同はポストへのパスがとおらず攻めあぐむ。これに対し、パスワークで勝る本田鈴鹿も3本のPTチャンスをつかむが1本しか決められず、10分を過ぎて1―1のロースコアーとなる。しかしディフェンスで徐々にペースをつかんだ本田はたて続けに速攻をくり出すなどして一気に点差を広げ前半を終る。

後半に入っても本田の勢いは止まらず、セット、FBと着実に加点していった。大同は高村の欠場が痛く、ペースをつかめないまま試合が終った。

	鈴鹿	得	大同	得
GK	大畑	0	上村	0
GK	橋本	0	秋吉	0
FP	真砂	4	田中	2
FP	福島	0	内藤	3
FP	藤井	0	朝生	2
FP	立木	3	市川	1
FP	尾上	0	明石	2
FP	内藤	4	河井	0
FP	粟屋	4	横浜	4
FP	田口	0	佐藤	0
FP	山本	2	名取	0
FP	山村	11	植木	0
計		28		14
PT		(5)		(3)

（審・日比、川合）

◇1月29日（日）　大阪・大阪市立中央体育館

湧永製薬30〔13―5／17―11〕16大同特殊鋼

〔戦評〕高村を故障で欠く大同は立ち上がりから劣勢を強いられ、フリースローから明石に打たせる

作戦に出たが、湧永の高いディフェンスを突破できず、着々と加点する層の厚い湧永に前半で13―5と大きく差をつけられる。
後半も湧永がGK徐の好キープから速攻を連発、高い打点からくり出すサウスポー名取が一人目立った大同を圧倒した。

	〔大同〕	得	〔湧永〕	得
GK	上村	0	徐	0
GK	秋吉	0	多田	0
FP	田中	3	酒巻	5
FP	内藤	2	河原	2
FP	朝生	1	玉村	5
FP	市川	0	堀田	2
FP	明石	0	中川	4
FP	河井	0	長沢	5
FP	横浜	5	荷川取	1
FP	佐藤	0	奥田	5
FP	名取	3	楢原	0
FP	植木	2	鎌塚	1
PT		(3) 16		(6) 30

（審・浅井・山本）

◇1月29日（日）
神奈川・横浜文化体育館

本田技研鈴鹿 30（18―11、12―6）17 三陽商会

〔戦評〕前半立ち上がりは一進一退の展開、15分までは6―6の互角。しかし、ここから三陽は全く攻めあぐみ、残りの15分間を無得点に終り、前半を終ってみれば12―6と本田鈴鹿が大きくリード。
後半も立ち上がり5分間三陽は無得点。これで前半から引き続き20分以上無得点で、これでは勝負にならない。着々と加点する本田が差を広げ、中盤からようやくリズムを取り戻した三陽をふり切った。

	〔三陽〕	得	〔鈴鹿〕	得
GK	宇田川	0	大畑	0
GK	吉田	0	橋本	0
FP	関	0	真砂	8
FP	清家	2	福島	0
FP	田口	0	藤井	0
FP	大塚	3	立木	1
FP	砂川	4	尾上	0
FP	山口	1	内藤	3
FP	浜田	3	栗屋	6
FP	実方	3	田口	0
FP	河村	0	川本	2
FP	吉原	1	山村	10
PT		(1) 17		(4) 30

（審・斉藤・三枝）

◇1月29日（日）
佐賀・佐賀総合体育館

大崎電気 35（15―15、20―13）28 日新製鋼

〔戦評〕前半、立ち上がりから大崎が差実に得点、10分には7―2とリードを奪う。その後日新も次第に攻撃にリズムを取り戻し、両チームとも確実に攻撃チャンスを得点に結びつけ、得点の奪い合いとなったが、20―13と大崎がリードを奪って折り返す。
後半も互に激しく得点を取り合うが、ほぼ一進一退の互角の展開で、日新は結局前半を点差を詰めることが出来ないまま終了。

	〔日新〕	得	〔大崎〕	得
GK	森田	0	渡辺	0
GK	谷	0	矢内	0
FP	竹田	2	松岡	4
FP	西山	9	大和田	4
FP	高木	6	武田	1
FP	甲斐	3	首藤	8
FP	日野	0	中田	4
FP	堀田	3	山本	6
FP	藤本	4	越迫	0
FP	池田	0	菅田	1
FP	野中	0	相馬	1
FP	木村	1	宮下	6
PT		(2) 28		(4) 35

（審・中本・福田）

◇2月5日（日）
熊本・熊本県立総合体育館

湧永製薬 22（8―10、14―10）20 三陽商会

〔戦評〕前半開始早々に三陽のGK宇田川がサイドシュートを再三好キープ。湧永の激しい攻撃に三陽は良く耐え、15分まで4―4の互角。その後も三陽の浜田の活躍で互角の勝負。これに対し湧永もサイドシュートで応酬、14―10で前半を終了。
後半に入り湧永は引き離しにかかるが、三陽は砂川のサイドシュートで食い下がる。14分にラフプレーから湧永・荷川取が退場、この間に三陽が2点を加え、16―17と1点差。その後も一進一退が続くが、湧永が奥田が決めて21―19と2点差とし、その後互いに1点ずつ加えて22―20の2点差で終了。

	〔三陽〕	得	〔湧永〕	得
GK	宇田川	0	徐	0
GK	吉田	0	多田	0
FP	関	0	酒巻	1
FP	清家	2	河原	4
FP	田口	0	玉村	2
FP	大塚	2	堀田	3
FP	砂川	7	中川	1
FP	山口	1	長沢	2
FP	浜田	6	荷川取	1
FP	安藤	0	奥田	7
FP	河村	2	楢原	1
FP	吉原	0	鎌塚	0
PT		(2) 20		(2) 22

（審・大宮・阪本）

◇2月5日（日）
兵庫・神戸市立神戸中央体育館

本田技研鈴鹿 30（13―9、17―10）19 日新製鋼

〔戦評〕立ち上がり、様子をうかがいながらの攻防、その後個人技の応酬戦であった。日新は西山、高木を中心としたダイナミックかつタイミングシュートで加点していく。また、山村の9割近いシュート率も見逃せない。結局、17―10と本田が前半を7点リードで折り返した。
後半も、中盤退場者が出るなどラフプレーが目立ったが、本田鈴鹿のポスト、速攻、ミドルありの多彩な攻撃で危げなく勝利を収めた。

	〔日新〕	得	〔鈴鹿〕	得
GK	森田	0	大畑	0
GK	谷	0	橋本	0
FP	武田	3	真砂	7
FP	西山	6	福島	2
FP	高木	4	藤井	0
FP	甲斐	0	立木	1
FP	日野	1	尾上	0
FP	堀田	2	内藤	7
FP	藤本	1	栗屋	4
FP	池田	0	田口	1
FP	野中	1	山本	2
FP	木村	1	山村	6
PT		(3) 19		(2) 30

（審・馬場・浜田）

◇2月5日（日）
静岡・草薙総合運動場体育館

大崎電気 31（15―8、16―7）15 大同特殊鋼

〔戦評〕攻撃のリズムが今一つ単調でしっくりとこない大同に対し大崎は堅い守りからの速攻や宮下、首藤らのロング、松岡のポスト、中田のサイド、あるいはカットインなど幅広く、柔軟性があり、スピーディな展開で着々と加点していった。
GKの矢内の好守も見逃せない。

	〔大同〕	得	〔大崎〕	得
GK	上村	0	渡辺	0
GK	秋吉	0	矢内	0
FP	田中	6	松岡	2
FP	内藤	1	大和田	2
FP	朝生	0	武田	2
FP	市川	2	首藤	6
FP	明石	5	中田	5
FP	河井	0	山本	6
FP	横浜	1	越迫	0
FP	中本	0	菅田	2
FP	名取	0	相馬	0
FP	植木	0	宮下	6
PT		(1) 15		(5) 31

（審・日比・川合）

◇3月11日（土）
愛知・名古屋市総合体育館

大崎電気 39（19―14、20―8）22 三陽商会

〔戦評〕開始早々、大崎電気は松岡の速攻、首藤、宮下の両大砲の力強いプレーで次々と得点する。対する三陽商会は、大崎の高く厚い堅の前になかなか突破口をつかむことができない。
後半に入ってもペースは変わらず、結局地力に勝る大崎電気が快勝した。

	〔三陽〕	得	〔大崎〕	得
GK	宇田川	0	渡辺	0
GK	吉田	0	矢内	0
FP	関	1	松岡	10
FP	清家	5	大和田	0
FP	田口	0	武田	3
FP	大塚	1	首藤	9
FP	砂川	3	山本	4
FP	山口	6	越迫	1
FP	浜田	6	菅田	0
FP	安藤	0	大野	0
FP	河村	0	相馬	4
FP	吉原	0	宮下	8
PT		(1) 22		(3) 39

（審・細井・岩永）



◇3月12日（日）
愛知・名古屋市総合体育館

日新製鋼28（15−3、13−15）**18大同特殊鋼**

〔戦評〕立ち上がりから日新製鋼は西山らのパワーあふれるプレーで次々と得点する。一方の大同特殊鋼は、日新の厚いディフェンスの前に攻撃のリズムがつかめず、前半僅か3得点という拙攻。
後半、徐々に落ち着きを取り戻した大同は、高村、朝生で反撃に移るが、前半の大量失点をはね返すまでには至らなかった。

	〔日新〕	得		〔大同〕	得
GK	森田	0	GK	上村	0
GK	谷	0	GK	秋吉	0
FP	武田	3	FP	田中	7
FP	西山	11	FP	内藤	0
FP	高木	2	FP	高村	4
FP	甲斐	2	FP	朝生	3
FP	日野	3	FP	河井	1
FP	堀田	2	FP	横浜	2
FP	藤本	2	FP	佐藤	0
FP	池田	0	FP	名取	0
FP	野中	2	FP	海江田	0
FP	木村	1	FP	植木	1
PT	(4)	28	PT	(3)	18

（審・日比 川合）

◇3月12日（日）
栃木・栃木総合体育館

本田技研鈴鹿20（9−7、11−9）**16湧永製薬**

〔戦評〕リーグ最終戦、それも優勝をかけてのゲームで互いに譲らず、常に1点差を保つ展開であったが、GK井藤を中心として湧永ディフェンスがゲームをコントロールして序盤が進んだ。前半残り10分を切った頃、本田はGKからのワンパス速攻で2点差としたが、湧永が1点返した直後、湧永GK井藤が速攻のパスカットに出て、本田・山村と体当りし、リタイアして前半が終了した。
後半に入り本田が先行するが、湧永・河原がロングを打ち出し、10−13となったスコアーを12−13までもどした。その後、井藤と交代した徐、本田GK橋本のファインプレーの応酬があり、見応えのある展開となったものの、湧永は井藤の交代が影響し、最後の踏張りがきかず、本田に追加点を許し逆転優勝をさらわれてしまった。

	〔鈴鹿〕	得		〔湧永〕	得
GK	大畑	0	GK	徐	0
GK	橋本	0	GK	井藤	0
FP	真砂	3	FP	酒巻	2
FP	福島	0	FP	河原	7
FP	立木	6	FP	玉村	3
FP	尾上	0	FP	堀田	0
FP	内藤	3	FP	中川	0
FP	粟屋	3	FP	長沢	1
FP	田口	1	FP	荷川取	1
FP	山本	0	FP	奥田	2
FP	山村	4	FP	楢原	0
FP	平子	0	FP	鎌塚	0
PT	(1)	20	PT	(2)	16

（審・千野 三村）

〔ベストプレーヤー賞〕
GK 橋本行弘（本田鈴鹿）
FP 西山　清（日新製鋼）
玉村健次（湧永製薬）
宮下和宏（大崎電気）
首藤信一（大崎電気）
奥田新治（湧永製薬）
山本興道（大崎電気）

〔最高殊勲選手賞〕
橋本行弘（本田鈴鹿）

〔得点王〕
西山清（日新製鋼）70点

〔最多得点賞〕
宮下和宏（大崎電気）55点
西山　清（日新製鋼）55点

〔最高得点率賞〕
松岡　寛（大崎電気）0・662

〔最優秀監督賞〕
佐々木信男（本田鈴鹿）

〔ペナルティー得点賞〕
山本興道（大崎電気）32点

〔ペナルティー獲得賞〕
松岡　寛（大崎電気）20回

〔新人賞〕
明石康宏（大同特殊鋼）

1部女子

大崎電気が全勝で制す

◇1月29日（日）
大阪・大阪市立中央体育館

大和銀行30（18−8、12−12）**20日立栃木**

〔戦評〕応援合戦の活発さが日立ったスタートで、日立は山岸、尾苗の両ロングで先行したものの、地の利を生かした大和が早いパスワークからディフェンスの甘さをついてロング、ミドルを連発して次々と加点、あっという間に逆転し一気に差を広げた。
後半、ディフェンスを引き締めた日立は、山岸をオトリに逆の尾苗、飯塚のロングで追い上げたが前半の失点が大き過ぎ、全員得点の大和に押し切られた。

	〔大和〕	得		〔日立〕	得
GK	増見	0	GK	岡本	0
GK	坂口	0	GK	梅津	0
FP	丸田	5	FP	菅原	1
FP	鈴木	5	FP	神永	0
FP	上村	5	FP	柳田	1
FP	小池	4	FP	山岸	4
FP	藤本	2	FP	尾苗	6
FP	渡辺	1	FP	中村	1
FP	袰川	4	FP	岡田	0
FP	松田	1	FP	石毛	1
FP	平井	1	FP	新井	2
FP	高尾	2	FP	飯塚	4
PT	(2)	30	PT	(4)	20

（審・北山 大原）

◇1月29日（日）
神奈川・横浜文化体育館

日本ビクター19（9−10、10−9）**19シャトレーゼ**

〔戦評〕立ち上がり、動きに精彩のない日本ビクターはシュートミスを連発し、シャトレーゼにリードを奪われた。しかし、徐々にペースを取り戻し、前半1点差まで詰め寄る。
後半立ち上がり、今度はシャトレーゼの動きが鈍く、退場者が連発、日本ビクターに逆転を許す。両チームとも相手チームのミスに乗じて加点するものの、相手を突き離すノーマークシュートをはずし、一進一退の攻防を続けた。

日本ビクターの1点リードで残り0秒のノータイムフリースローでシャトレーゼ海道が劇的な同点シュートを決め引き分けた。

	〔シャト〕	得	〔ロビ〕	得
GK	丸山	0	小口	0
GK	工藤	0	高橋	0
FP	嶋崎	6	武藤	5
FP	海道	6	長田	7
FP	黒沼	1	枝川	2
FP	小林	0	下條	3
FP	小野寺	3	平松	0
FP	江原	1	根本	2
FP	生方	2	太田	0
FP	小俣	0	工藤	0
FP	宇宿	0	松井	0
FP	浅田	0	永岡	0
PT	(3)	19	(2)	19

（審・浜田・小笠原）

◇1月29日（日）

佐賀・佐賀県総合体育館

大崎電気31（14－10、17－11）21立石電機山鹿

〔戦評〕開始早々、尹のカットインで先行した大崎は8分過ぎ、野嶋のシュートで4－5とリードを許したが、金玉花のシュートですかさず同点とし、松尾のポスト、金のミドル、PTで得点を重ね主導権を握った。

後半に入り、立石のシュートミスを逆に速攻に結びつけ、当りの出てきた尹を軸に着々と加点して大崎が危げなく6連勝を飾った。

一方立石もボール出しからの速攻で勝機を狙ったが、攻撃力に差のある大崎にはかなわなかった。女子のゲームには珍らしく、激しく当り合う好ゲームであった。

	〔立石〕	得	〔大崎〕	得
GK	岡本	0	佐々木	0
GK	川島	0	宗方	0
FP	山口	0	森田	0
FP	山内	3	松尾	5
FP	江口	1	須永	0
FP	田中	1	前川	3
FP	野崎	4	梅原	3
FP	橋本	0	江口	2
FP	武津	2	野田	2
FP	中山	4	鈴木	0
FP	比嘉	4	金玉花	8
FP	石村	2	尹秉順	8
PT	(3)	21	(4)	31

（審・高橋・森山）



◇2月5日（日）

熊本・熊本県立総合体育館

立石電機山鹿22（11－5、11－9）14日立栃木

〔戦評〕前半、立石は素晴らしい立ち上がりで野嶋のステップ、比嘉の速攻などでたちまち3－0。その後10分過ぎまで得点がストップ。お互いに攻めあぐんだまま今度は日立がじりじりと追い上げ、1点差まで詰め寄る。ここで野嶋が速攻のフォローで7－5とする。

底力のある立石は着実に加点し、11－5で前半を終了。

後半に入っても立石の猛攻は続き、比嘉、野嶋が次々とシュートを決める。立石はメンバーチェンジをしながらの余裕ある戦いになる。この試合、特に比嘉の小気味よい動きが目立った。

日立は前半11分までの無得点が最後までひびいた。

	〔日立〕	得	〔立石〕	得
GK	岡本	0	岡本	0
GK	梅津	0	川島	0
FP	柳田	0	山口	0
FP	山岸	1	山内	2
FP	尾苗	3	江口	2
FP	中村	0	横田	0
FP	岡田	0	野嶋	7
FP	石毛	3	武津	2
FP	新井	4	中山	1
FP	吉鶴	0	斉藤	1
FP	飯塚	2	比嘉	5
FP	提	1	石村	2
PT	(1)	14	(1)	22

（審・森山・田原）

◇2月5日（日）

兵庫・神戸市立神戸中央体育館

シャトレーゼ19（7－10、12－9）19大和銀行

〔戦評〕前評判通り大和のディフェンスがシャトレーゼを上回っていた。このペースでいけば6～7点差の勝利を収めるかと思われたが、後半の立ち上がりは一進一退。中盤を過ぎた頃シャトレーゼがパワフルで小気味よいシュートを決めて同点に追いつく。しかし、大和もPT2本を決めて残り5分に19－18と1点をリード。逃げ切るかに見えたが、終了間際にシャトレーゼ・生方が同点シュートを決めて引き分けた。

	〔大和〕	得	〔シャト〕	得
GK	増見	0	丸山	0
GK	坂口	0	工藤	0
FP	丸田	10	嶋崎	2
FP	鈴木	1	海道	3
FP	上村	0	松沢	3
FP	小池	3	黒沼	0
FP	藤本	2	小林	0
FP	渡辺	0	小野寺	0
FP	袰川	3	江原	0
FP	木瀬	0	生方	4
FP	松田	0	山岸	6
FP	高尾	0	宇宿	1
PT	(2)	19	(3)	19

（審・北山・大原）

◇2月5日（日）

静岡・草薙総合運動場体育館

大崎電気31（20－10、11－11）21日本ビクター

〔戦評〕大崎・尹のロングシュートで先行、ビクターのミスにつけこんで着実に加点。固さの見えたビクターも5分過ぎから動きが良くなり、長田のステップ、根本の

ポストシュートで反撃。しかし守りの良い大崎は、相手のミスを誘い、速攻、ポストと得点をあげ、20—10と大きくリードして前半を終了した。
　後半、両チームともリズムがつかめなかったが、4分過ぎ大崎・金のステップシュートで得点、リズムをつかんだ。大崎は尹のロング、松尾のポストなどでリードを広げる。ビクターを武藤のロング枝川の速攻などで得点をあげるがスピード、テクニックでビクターを上回る大崎の圧勝である。

得	〔大崎〕		〔日ビ〕	得
0	佐々木	GK	小口	0
0	宗方	GK	高橋	0
1	森田	FP	武藤	7
2	松尾	FP	長田	8
0	須永	FP	枝川	1
4	前川	FP	下條	1
4	梅原	FP	根本	3
2	江口	FP	太田	0
0	野田	FP	工藤	0
1	鈴木	FP	永岡	0
9	金玉花	FP	中村	1
8	尹秉順	FP	山之内	0
31	(4)	PT	(4)	21

（審・板倉　岩本）

◇2月18日（土）
茨城・岩井総合体育館

日本ビクター 23 (12—12 / 11—6) 18 日立栃木

〔戦評〕日立のペースで試合は始まったが、前半9分、ビクターが追いついて4—4となる。その後も、ビクター・枝川の速攻、日立・石毛のサイドシュート、ビクター・武藤、日立・山岸両キャプテンの活躍で一進一退を続け、前半は12—12の同点で終了。後半10分過ぎからビクターがペースに乗り、2点をリード。武藤が退場している間にも勝負をかけ17分には5点差とする。ディフェンス、GKとも動きの良くなったビクターに対し日立は攻めあぐみ、得点をあげられないまま引き離された。

得	〔日ビ〕		〔日立〕	得
0	小口	GK	岡本	0
0	高橋	GK	梅津	0
7	武藤	FP	菅原	0
7	長田	FP	神永	1
4	枝川	FP	柳田	0
0	下條	FP	山岸	4
1	根本	FP	尾苗	5
4	太田	FP	岡田	2
0	工藤	FP	石毛	2
0	永岡	FP	新井	4
0	中村	FP	吉鶴	0
0	山之内	FP	飯塚	0
23	(3)	PT	(3)	18

（審・田村　斉藤）

◇2月19日（日）
山梨・緑が丘公園体育館

大崎電気 33 (19—11 / 14—10) 21 シャトレーゼ

〔戦評〕前半、試合開始から4分まで4—1とシャトレーゼが好調な滑り出しを見せ、ディフェンスでも大崎の尹と金の両エースを強くマークした。これに対して大崎も速攻とコンビプレーで応戦。徐々に尹と金のシュートに当りが出始め、松尾のポストプレーなどで前半を19—11と大きくリードして折り返した。
　後半に入っても、大崎は両エースを中心に松尾からませて多彩な攻撃を見せる。シャトレーゼは何とか反撃の糸口をつかもうとするが、点差はちぢまらず、総合力で常に勝る大崎の快勝だった。

得	〔大崎〕		〔シャト〕	得
0	佐々木	GK	丸山	0
0	宗方	GK	千葉	0
0	森田	FP	嶋崎	6
3	松尾	FP	海道	7
0	須永	FP	松沢	3
6	前川	FP	黒沼	0
0	梅原	FP	小林	1
3	江口	FP	小野寺	0
3	野田	FP	江原	0
0	鈴木	FP	生方	1
9	金玉花	FP	山岸	3
9	尹秉順	FP	宇宿	0
33	(3)	PT	(3)	21

（審・菊池　羽田）

◇2月19日（日）
愛知・半田市体育館

立石電機山鹿 20 (10—8 / 10—9) 17 大和銀行

〔戦評〕大和のスローオフで始まったこの試合は、さすが日本リーグの一部の試合らしくスピーディでスリリングな展開であったが、警告も多く荒っぽい面も感じられた。前半は、立石は35本、大和は19本のシュートを打ったが、どちらもGKの好守や正確さを欠くなどで得点には至らなかったが、シュート本数の多い分立石がリードしたと言える。

得	〔立石〕		〔大和〕	得
0	岡本	GK	増見	0
0	川島	GK	坂口	0
0	山口	FP	丸田	7
1	山内	FP	鈴木	2
1	江口	FP	上村	2
1	田中	FP	小池	0
0	横田	FP	藤本	1
7	野嶋	FP	渡辺	0
3	武津	FP	裵川	3
3	中山	FP	木瀬	0
3	比嘉	FP	松田	0
1	石村	FP	高尾	2
20	(6)	PT	(2)	17

（審・川島　森）

　後半6分過ぎに大和が裵川のシュートなどで一時は11—11の同点に追いついたものの、12分過ぎに大和が2人の退場者を出し、その間に点差をつけられたのが痛く、最後の5分ぐらいで頑張って得点をあげたが追いつくことはできなかった。

◇2月25日（土）
香川・高松市総合体育館

日本ビクター 24 (14—11 / 10—8) 19 大和銀行

〔戦評〕立ち上がり体の動かない大和に対しビクターは得点の速攻などで加点し6—1とする。その頃から大和のGK増見が当り出し固さもとれた丸田のロングなどで猛追を開始する。その後両チームともに退場者を出すが、シュートミスの多い大和を尻目にビクターが少しずつリズムを取り戻した。
　最後は、ビクターの一方的な展開となったが、白熱した好試合であった。

得	〔日ビ〕		〔大和〕	得
0	小口	GK	増見	0
0	高橋	GK	坂口	0
6	武藤	FP	丸田	6
10	長田	FP	鈴木	1
3	枝川	FP	上村	0
1	下條	FP	小池	7
0	平松	FP	藤本	1
2	根本	FP	渡辺	1
2	太田	FP	裵川	3
0	永岡	FP	木瀬	0
0	中村	FP	松田	0
0	山之内	FP	平井	0
24	(9)	PT	(3)	19

（審・野中　竹村）

◇2月26日（日）
徳島・徳島市立体育館

大崎電気 34 (14—13 / 20—14) 27 日立栃木

〔戦評〕前半、大崎は松尾の速攻、前川のPTで着実に得点を重ねた。一方日立は、大崎の速い攻撃に手こずり、自分たちのゲームがつくれなかったが尾苗のロング、カットで食い下がり、14—13と1点差で折り返した。
　後半に入り、大崎は金を中心にゲームを展開した。日立は大崎のスピードに追いつけず涙を飲んだ。

得	〔大崎〕		〔日立〕	得
0	佐々木	GK	岡本	0
0	宗方	GK	梅津	0
1	森田	FP	菅原	0
6	松尾	FP	神永	2
1	須永	FP	柳田	1
7	前川	FP	山岸	8
1	梅原	FP	尾苗	9
1	江口	FP	岡田	2
1	野田	FP	石毛	1
0	鈴木	FP	新井	1
10	金玉花	FP	吉鶴	2
6	尹秉順	FP	飯塚	1
34	(9)	PT	(6)	27

（審・野中　竹村）

◇2月26日（日）
京都・京都市体育館

立石電機山鹿 14 (8—9 / 6—5) 14 シャトレーゼ

〔戦評〕立石の比嘉、野嶋、シャトレーゼの海道、松沢の活躍で両チーム一進一退の展開、15分経過して5—5の熱戦となった。立石のミスが連続し、シャトレーゼが黒沼、山岸の連続シュートで引き離しにかかるが、立石も相手ミスからの速攻で得点して譲らず、前



半を1点差で終了。

後半出だしにシャトレーゼ嶋崎が連続ゴールし、11—8とシャトレーゼ優位に展開。しかし立石も比嘉、野嶋の踏んばりとGKの好

〔シャト〕	得		〔立石〕	得
丸山	0	GK	岡本	0
千葉	0	GK	川島	0
嶋崎	3	FP	山口	0
海道	1	FP	山内	0
松沢	3	FP	江口	0
黒沼	3	FP	田中	0
小林	0	FP	横田	0
小野寺	0	FP	野嶋	5
江原	0	FP	武津	2
生方	2	FP	中山	4
山岸	2	FP	比嘉	3
宇宿	0	FP	石村	0
14	(0)	PT	(0)	14

〔審・浅井 山本〕

守で一歩も譲らず、12—11と1点差まで追い上げた。その後も一進一退で1点差のまま展開し、残り2分から立石・野嶋が連続ゴールし、終了3秒前に同点として引き分けた。

◇3月4日（土）
埼玉・戸田スポーツセンター

大崎電気 37 〔18—15 19—21〕 36 大和銀行

〔戦評〕すでに優勝を決めている大崎に対し、今リーグ一息調子に乗れない大和の対戦だが、激しい〝打撃戦〟を展開した。

前半立ち上がりは大和が先行した。15分まで8—7と1点をリード。しかし、ここから大和が少し攻めあぐみ、大崎が金を中心に得点をあげて逆転、じりじりと点差をつけ、18—15で前半を折り返す。

後半も立ち上がりは大和のリズム。5分には19—19と追いつく。ここから大崎の金、尹、大和の丸田、小池、鈴木らの激しい打ち合いとなり、全くの一進一退。結局37—36と1チームの最高得点、1試合の両軍合計得点の新記録をつくり、大崎が1点差で逃げ切って全勝で優勝を飾った。

〔大和〕	得		〔大崎〕	得
増見	0	GK	佐々木	0
坂口	0	GK	宗方	0
丸田	8	FP	森田	0
鈴木	5	FP	松尾	6
上村	4	FP	須永	0
小池	7	FP	前川	3
藤本	4	FP	梅原	0
渡辺	1	FP	江口	5
袰川	0	FP	野田	1
木瀬	0	FP	鈴木	2
松田	7	FP	金玉花	12
高尾	0	FP	尹秉順	8
36	(2)	PT	(3)	37

〔審・浜田 島田〕

◇3月12日（日）
愛知・名古屋市総合体育館

日本ビクター 23 〔8—10 15—9〕 19 立石電機山鹿

〔戦評〕両チームともによく動き、見応えのある好ゲームとなったこの試合、立石は比嘉がすばらしいステップワークで前半7点をたたき出す大活躍。日本ビクターもキャプテン武藤のロング、また、点のあったポストプレーで応戦し、ほぼ互角の展開となる。

後半に入り、ビクターは半速攻から武藤、長田が豪快に打ち込み主導権を握る。立石も野嶋を軸に追いすがるが及ばなかった。

〔立石〕	得		〔日ビ〕	得
岡本	0	GK	小口	0
川島	0	GK	高橋	0
山口	0	FP	武藤	9
山内	0	FP	長田	6
江口	0	FP	枝川	3
田中	1	FP	下條	1
横田	1	FP	根本	3
野嶋	2	FP	太田	1
武津	3	FP	工藤	0
中山	1	FP	永岡	0
比嘉	10	FP	中村	0
石村	1	FP	山之内	0
19	(5)	PT	(4)	23

〔審・川島 森〕

◇3月12日（日）
栃木・栃木総合体育館

シャトレーゼ 22 〔8—8 14—9〕 17 日立栃木

〔戦評〕シャトレーゼが先行するものの、エース海道のシュートが日立に研究されてオフェンスのリズムがつかめず、得点がのびない。そこを日立が山岸、尾苗で追い上げ、前半同点で折り返した。

後半に入り、シャトレーゼ海道がいきなりロングシュートを決めたが、日立も尾苗がすぐに決め、1点を争うゲームとなった。中盤にかかる頃、日立のオフェンスをシャトレーゼが速攻に結びつけ、さらに生方がロングを決め、突き放すかに見えたが、日立も吉鶴をオフェンスのみに投入することによりボールが回り、同点とする。しかし、シャトレーゼがここで再び突き放し、3点とし、さらにその後も日立を押え終了した。

〔日立〕	得		〔シャト〕	得
岡本	0	GK	丸山	0
梅津	0	GK	工藤	0
菅原	0	FP	嶋崎	1
神永	1	FP	海道	6
柳田	0	FP	松沢	4
山岸	2	FP	黒沼	3
尾苗	5	FP	小林	1
岡田	1	FP	小野寺	0
石毛	2	FP	生方	4
新井	1	FP	山岸	3
吉鶴	5	FP	野沢	0
飯塚	0	FP	小俣	0
17	(2)	PT	(2)	22

〔審・宮沢 小林〕

〔ベストプレーヤー賞〕
GK　小口明子（日本ビクター）
FP　金　玉花（大崎電気）
　　尹　乗順（大崎電気）
　　海道元子（シャトレーゼ）
　　松尾輝子（大崎電気）
　　武藤夕起子（日本ビクター）
　　丸田紀子（大和銀行）

〔最高殊勲選手賞〕
金　玉花（大崎電気）

〔得点王〕
金　玉花（大崎電気）　114点

〔最多得点賞〕
金　玉花（大崎電気）　99点

〔最高得点率賞〕
尹　乗順（大崎電気）0・689

〔最優秀監督賞〕
李　相玉（大崎電気）

〔ペナルティー得点賞〕
長田友子（日本ビクター）　32点

〔ペナルティー獲得賞〕
根本幸枝（日本ビクター）　19回

〔新人賞〕
比嘉晴美（立石電機山鹿）

2部男子

トヨタ自動車が辛くも逃げ切り優勝

◇1月29日（日）
神奈川・横浜文化体育館

三景 28 〔12—5 16—11〕 16 大阪ガス

〔戦評〕大砲不在の両チームの対戦。ミスの多い大阪ガスに対し、三景は激しいディフェンスとスピーディなボール展開で終始試合の主導権を握り、前半で12—5と勝負を決めた。

後半は点の取り合いとなるが、前半の貯金を生かし、余裕のある試合運びをする三景が楽々と逃げ切った。

得	〔三景〕		〔ガス〕	得
0	北川	GK	福田	0
0	長橋		奥野	2
0	田村	FP	加地	1
4	近藤		竹志	0
1	福永		中村	4
0	郡司		長田	2
3	福士		水谷	2
9	西川		田坂	1
4	斉藤		藤田	2
2	大谷		森	0
4	小金山		高砂	2
1	木原			
28	(1)	PT	(2)	16

（審・三辻 本田）

◇1月29日（日）
佐賀・佐賀県総合体育館

豊田自動織機 32 〔15—16 17—14〕 30 本田技研熊本

〔戦評〕前半、豊田自動織機がリードしては本田技研熊本が追いつくという試合展開で、前半終了直前に本田・川崎の速攻で得点、16—15と本田技研熊本のリードで前半を終えた。

後半、前半同様追いつ追われつの試合展開で、ディフェンス力に勝る豊田自動織機が辛勝。

得	〔自織〕		〔熊本〕	得
0	柴田	GK	中尾	0
0	中村		宮本	0
11	蟹江	FP	矢野	0
6	奥畑		荒田	0
2	大野		三代	3
3	諌山		松村	5
9	山内		田中	1
0	笹嶺		山口	6
1	鎌田		川崎	8
0	杉浦		長野	1
			佐伯	2
			長野	4
32	(4)	PT	(5)	30

（審・高橋 井上）

◇2月4日（土）
神奈川・相模原市立総合体育館

三景 31 〔15—10 16—8〕 18 日鉄建材

〔戦評〕立ち上がりは互角の試合展開であったが、15分過ぎから三景の激しいチェックの前に日鉄建材はミスを連発、連続速攻を許してしまう。後半も完全にペースをつかんだ三景が一方的に押しまくり、快勝した。

得	〔三景〕		〔日鉄〕	得
0	北川	GK	岩嶋	0
0	長橋		川上	0
2	田村	FP	霜村	0
1	近藤		杉木	0
0	福永		山口	5
5	福士		池辺	2
10	西川		上山	6
6	斉藤		清原	3
0	大谷		古川	0
6	小金山		若本	2
1	木原		玉嶋	0
31	(3)	PT	(2)	18

（審・松本 石川）

トヨタ車体 21 〔5—7 16—12〕 19 豊田自動織機

〔戦評〕立ち上がりトヨタ車体の連続退場の間にあげた得点を豊田自動織機が守り、前半は7—5で折り返した。

後半開始直後、連続得点で一度は追いついたトヨタ車体だが、GK宮田の退場の間に3点差をつけられてしまった。

後半残り10分で吉続が失格処分を受けたが、これで奮起したトヨタ車体はスピーディな展開から一挙に逆転し、勝利を収めた。

両チームのGKの好守が光った試合であった。

得	〔車体〕		〔自織〕	得
0	宮田	GK	柴田	0
0	村林		中村	0
4	吉續	FP	蟹江	1
3	長野		奥畑	5
3	君島		大野	1
4	河合		諌山	3
1	藤長		山内	6
5	松井		笹嶺	0
0	平野		鎌田	0
0	平川		杉浦	3
1	久保山			
0	井上			
21	(1)	PT	(3)	19

（審・本田 三辻）

◇2月5日（日）
神奈川・相模原市立総合体育館

トヨタ自動車 38 〔19—14 19—15〕 29 日鉄建材

〔戦評〕日鉄建材は、トヨタ自動車に対してよく健闘し、上山のロングシュートなどで対抗した。特に、後半の立ち上がりトヨタ自動車が2人退場したところで2点差まで詰め寄ったが、その後地力に勝るトヨタ自動車が速攻などで着実に加点して逃げ切った。

得	〔自動車〕		〔日鉄〕	得
0	西井	GK	岩嶋	0
0	富森		霜村	0
7	香井	FP	杉本	4
7	川田		山口	5
3	酒井		池辺	3
4	堀江		上山	16
2	中西		清原	1
3	平野		若本	0
3	白坂		玉嶋	0
0	田村			
6	松尾			
3	杉元			
38	(0)	PT	(2)	29

（審・細井 斉田）

中村荷役 20 〔8—6 12—8〕 14 トヨタ車体

〔戦評〕前・後半を通じてお互いに決定力を欠き、得点の低いゲームとなり、後半残り5分ぐらいまで1点を争うゲームとなったが、終了5分前頃から中村荷役は速攻がたて続けに決まり、6点差で逃げ切った。

得	〔中村〕		〔車体〕	得
0	石井	GK	宮田	0
0	飯塚		村林	0
2	三尾	FP	吉續	1
2	塚田		長野	3
0	中村		君島	3
4	大木		河合	2
1	下戸成		藤長	1
5	松本		松井	4
0	堀戸		平野	0
3	池田		久保山	0
2	飯田		井上	0
1	坂口		崎野	0
20	(1)	PT	(0)	14

（審・松本 石川）

◇2月18日（土）
三重・ジャスコ体育館

トヨタ車体 26 〔10—8 16—15〕 23 トヨタ自動車

〔戦評〕立ち上がり両チームとも少々固さが見られ、攻防のミスが続いた。また、その後シュートも両チームGKが好守し、一進一退の展開であった。チャンスをつかんだのが車体で中盤過ぎGKが速攻を防ぎ、その後ペースに乗り前半を終了。

後半、トヨタ自動車は1点差に追いつき逆転をねらったが、トヨタ車体もディフェンスに粘り、追いすがるトヨタ自動車を徐々に引き離し勝利を飾った。

得	〔車体〕		〔自動車〕	得
0	宮田	GK	西井	0
0	村林		富森	0
3	吉續	FP	香井	7
5	長野		川田	10
10	君島		酒井	2
3	河合		堀江	1
2	藤長		中西	0
3	松井		平野	2
0	平野		田村	0
0	久保山		松尾	1
0	井上		村上	0
0	崎野		杉元	0
26	(5)	PT	(0)	23

（審・松ケ谷 夏目）

豊田自動織機 25 〔11—9 14—11〕 20 大阪ガス

〔戦評〕立ち上がり両チームとも攻撃に決め手を欠き、10分に大阪

ガスの3－1とスローペースのゲーム展開となったが、奥畑のミドルシュートなどで逆転した豊田自動織機が2点をリードして折り返した。

後半に入り、大阪ガスも中村のサイドシュートなどで追い上げたが、味方の退場のピンチに逆にリードを広げた豊田が終始余裕をもって逃げ切った。

	〔ガス〕	得
GK	福田	0
FP	奥野	3
	加地	3
	竹志	1
	中村	6
	長田	4
	水谷	3
	田坂	0
	藤田	0
PT		(6)
		20

	〔自織〕	得
GK	柴田	0
	中村	0
FP	蟹江	3
	奥畑	7
	大野	4
	諌山	2
	山内	5
	笹嶺	0
	新田	0
	鎌田	4
	杉浦	0
PT		(1)
		25

〔審・平賀・秋山〕

◇2月18日（土）

三重・ジャスコ体育館

三景 30 〔15－9 15－16〕 25 中村荷役

〔戦評〕試合開始から序盤にかけて、両チームとも速攻、セットにより効率よく得点したが、中村が三景のセットオフェンスのパスカットからのルーズボールを速攻に結びつけ、主導権を握るかに見えたが、シュートが不確実で得点が続かず、同様に三景も中村のディフェンスをくずしながら再三のシュートチャンスをはずし一進一退となった。

後半に入り、中村の攻守の切り替えがスムースになり、速攻が連続し、4点差までリードを広げたが、三景のポストを中心に変化させる攻めを止め切れず、さらにPT、ノーマークをGKに止められて得点が止まり、20分には同点となってしまった。ここで、三景GKが再びPTを止め、逆にその後三景がPTを決め逆転し、その勢いで一気に加点して試合を決定した。

	〔中村〕	得
GK	石井	0
	飯塚	0
FP	三尾	0
	塚田	3
	中村	0
	大木	6
	下戸成	5
	松本	3
	堀戸	1
	池田	5
	飯田	1
	坂口	1
PT		(5)
		25

	〔三景〕	得
GK	北川	0
	長橋	0
FP	田村	6
	近藤	1
	福永	0
	福士	4
	西川	4
	斉藤	6
	大谷	0
	小金井	9
PT		(5)
		30

〔審・市瀬・手塚〕

本田技研熊本 33 〔17－11 16－14〕 25 日鉄建材

〔戦評〕本田熊本は日鉄ディフェンスをゆさぶらないうちに強引にパスを通そうとし、それを読まれパスが通った地点でディフェンスに止められる場面が多く、攻めのリズムがつかめなかった。一方日鉄は、山口がうまい動きから自らシュートを決め、さもなくばマークを引きつけ、他のディフェンスが薄くなり、前への詰めが遅れがちなところを長身の上山が得点するパターンを中心にし、サイドのポジションチェンジなどの切り崩しを織りまぜ加点した。しかし、ここまで速攻の出足のよさが空回りしていた本田熊本が日鉄のミスを生かしはじめて追い上げ、セットの攻撃も強引なシュートを日鉄が止め切れなくなり、一気に逆転、そのまま試合の流れを決定づけた。

	〔日鉄〕	得
GK	岩嶋	0
	川上	0
FP	霜村	0
	杉本	5
	山口	5
	池上	1
	上山	9
	外山	2
	清原	2
	古川	0
	若本	1
	玉嶋	0
PT		(2)
		25

	〔熊本〕	得
GK	中尾	0
	宮本	0
FP	矢野	2
	荒田	4
	三代	2
	松村	5
	田中	2
	山口	9
	川崎	9
	長野	0
	佐伯	0
	長野	0
PT		(3)
		33

〔審・菊島・古屋〕

◇2月19日（日）

山梨・緑が丘公園体育館

本田技研熊本 28 〔12－13 16－12〕 25 三景

〔戦評〕前半立ち上がりともに動きが固く得点できなかったが、3分過ぎからようやくゲームが流れ始め、ほぼ一進一退の展開となる。中盤まではどちらかと言えば三景優位の展開だったが、20分を過ぎてから本田熊本のリズムとなり、一気に逆転、4点をリードして前半を折り返す。

後半も、両者互角の展開で、少しずつ三景が追い上げ、残り5分を切って2点差までしたが、本田熊本がしっかり逃げ切った。

	〔三景〕	得
GK	北川	0
	長橋	0
FP	田村	6
	近藤	2
	福永	0
	福士	3
	西川	4
	斉藤	5
	大谷	0
	小金山	5
PT		(4)
		25

	〔熊本〕	得
GK	中尾	0
	宮本	0
FP	矢野	0
	荒田	2
	三代	6
	松村	4
	田中	5
	山口	6
	川崎	5
	長野	0
	佐伯	0
	長野	0
PT		(2)
		28

〔審・水越・上小沢〕

中村荷役 27 〔17－8 10－10〕 18 日鉄建材

〔戦評〕立ち上がり、ともにシュートが決まらず、5分で日鉄の1－0というロースコアー。それでも全くの一進一退の点の取り合いで、前半を10－10の同点で折り返す。

後半に入り、10分頃まではほぼ互角の展開だったが、ここから中盤、日鉄が中村ディフェンスを攻めあぐみ、シュートミスも多く、10分以上無得点。ここで一気に引き離されて勝負は決した。

	〔日鉄〕	得
GK	岩嶋	0
	川上	0
FP	霜村	0
	杉本	2
	山口	1
	池辺	5
	上山	5
	外山	1
	清原	3
	古川	0
	若本	1
	玉嶋	0
PT		(1)
		18

	〔中村〕	得
GK	石井	0
	飯塚	0
FP	三尾	2
	塚田	3
	中村	0
	大木	6
	下戸成	2
	松本	6
	堀戸	2
	池田	4
	飯田	2
	坂田	0
PT		(2)
		27

〔審・小池・笠井〕

◇2月19日（日）

愛知・半田市体育館

トヨタ自動車 30 〔15－14 15－16〕 30 豊田自動織機

〔戦評〕立ち上がり、豊田自動織機は蟹江の連続サイドシュートで

リードし、10分には5点差がついたが、トヨタ自動車もじわじわ追い上げ、25分には同点とした。終了間際2本のPTを得た豊田自動織機が1点のリードをして前半を終了した。
　後半はトヨタ自動車のリズムで展開し、7分には逆転したが、この試合11点をあげた豊田自織の山内のロングシュートが決まり、一進一退の内容となった。その後、トヨタ自動車も引き離すことができず、豊田自織の粘りに合い引き分けた。

〔自動車〕	得		〔自織〕	得
西井	0	GK	柴田	0
富森	0		中村	0
香井	2	FP	蟹江	8
川田	8		奥畑	4
酒井	9		大野	1
堀江	0		諌山	3
中西	0		山内	11
平野	3		笹嶺	0
白坂	3		新田	0
田村	0		鎌田	3
松尾	5		杉浦	0
杉元	0			
	30 (3)	PT		30 (2)

（審・岩本 岩橋）

大阪ガス 28（15－7 13－10）17 トヨタ車体

〔戦評〕大阪ガスの堅いディフェンスからの速い攻めが冴え、前半15分には5点をリードし、前半終了時には8点差をした。
　後半は、トヨタ車体が必死に追い上げるが、あせりからのミスが目立ち、また大阪ガスGK福田の好守もあい、差は徐々に広がった。

〔車体〕	得		〔ガス〕	得
宮田	0	GK	福田	0
村林	0			
吉續	1	FP	奥野	1
長野	5		加地	5
君嶌	6		竹志	0
河合	3		中村	4
藤長	0		長田	3
松井	2		水田	11
平野	0		田坂	4
久保田	0		藤田	1
井上	0		森	0
崎野	0			
	17 (1)	PT		29 (4)

（審・夏目 秋山）

◇2月25日（土）
香川・高松市総合体育館

豊田自動織機 29（13－13 16－12）25 日鉄建材

〔戦評〕両チームとも初歩的なミスが連続し、一進一退のゲーム展開で前半を終了する。
　後半に入り、豊田自動織機は確実に得点を重ねた。豊田の山内、大野、蟹江らのミドル、ロングと多彩なシュートが目立った。一方の日鉄建材は、上山のロング、杉本のカットインが光り健闘したが、後半の中ばよりムードによく乗った豊田が逃げ切った。

〔日鉄〕	得		〔自織〕	得
川上	0	GK	柴田	0
			中村	0
霜村	0	FP	蟹江	6
杉本	7		奥畑	3
池辺	3		大野	7
上山	12		諌山	4
外山	1		山内	5
清原	2		笹嶺	0
若本	0		新田	0
玉嶋	0		鎌田	4
			杉浦	0
	25 (1)	PT		29 (4)

（審・岡本 中川）

三景 28（14－5 14－9）14 トヨタ車体

〔戦評〕前半は、三景がトヨタ車体のミスをうまく速攻につなげて確実に加点、トヨタ車体も速いパス回しで攻めるが、大事な所でミスが出て5点にとどまる。
　後半に入り、トヨタ車体もパスがつながり、必死に追い上げるが、三景のGK長橋の好守に阻まれ、敗れ去った。

〔車体〕	得		〔三景〕	得
宮田	0	GK	北川	0
村林	0		長橋	0
吉續	3	FP	田村	1
長野	5		近藤	3
君島	2		福長	0
河合	2		福士	8
藤長	0		西川	4
松井	1		斉藤	5
平野	0		大谷	2
久保山	0		小金山	5
井上	1		木原	0
崎野	0			
	14 (0)	PT		28 (3)

（審・松原 中川）

◇2月25日（土）
熊本・本田技研熊本体育館

本田技研熊本 28（13－12 15－9）21 大阪ガス

〔戦評〕立ち上がり2チームとも固さがあり、大阪ガスの1点リードで10分までいったが、本田技研熊本の速攻が決まりだし10－6と逆転。しかし、本田熊本に前半終了5分前からミスが多くなり、結局1点差で前半を終る。
　後半、立ち上がりより1点を争うゲームとなったが、15分過ぎから本田熊本の速攻が決まりだし、そのままリードを広げて逃げ切った。

〔ガス〕	得		〔熊本〕	得
福田	0	GK	中尾	0
			宮本	0
加地	4	FP	矢野	0
竹志	3		荒田	0
中村	5		三代	3
長谷	1		松村	3
水田	4		田中	3
田坂	3		山口	11
藤田	1		川崎	4
森	0		長野	0
			佐伯	4
			長野	0
	21 (0)	PT		28 (0)

（審・大宮 阪本）

トヨタ自動車 26（10－10 16－15）25 中村荷役

〔戦評〕トヨタ自動車が立ち上がりより速攻、ロングで点を取り、また中村荷役もベテラン飯田、松本を中心に点を取り合い、1点を争うゲームになる。
　後半8分過ぎから中村・三尾のロング・下戸成のミドルなどで4点差をつけたが、15分過ぎからトヨタも川田を投入し、杉本のロングなどで盛り返し、終了1分前に25－25の同点、終了2秒前に香井の劇的なシュートで逆転勝ちを収めた。

〔中村〕	得		〔自動車〕	得
石井	0	GK	西井	0
飯塚	0		富森	0
三尾	10	FP	香井	3
塚田	1		川田	4
中村	0		酒井	4
大木	0		堀江	4
下戸成	3		中西	0
松本	5		平野	3
堀戸	0		白坂	0
池田	1		田村	0
飯田	3		松尾	2
坂口	2		杉元	6
	25 (0)	PT		26 (5)

（審・切通 大村）

◇2月26日（日）
熊本・本田技研熊本体育館

トヨタ自動車 25（9－10 16－11）21 大阪ガス

〔戦評〕立ち上がりトヨタのシュートミスから大阪ガスが速攻で2点をリード。しかし、トヨタは杉本のロング、PTなどで8分には3－3の同点。15分には5－3と逆転した。しかし、大阪ガスも長田、竹志のミドル、サイドシュートで加点、GK福田のナイスキーピングもあって10－9と1点リードして前半を終了。
　後半に入ってからトヨタに速攻が出て15分に17－17の同点。ここで大阪ガスが作戦タイムをとり一時は流れは大阪ガスかに見えたが、19分、トヨタ・松尾の退場に大阪ガスはあせったのかパスミスからトヨタに速攻2本を許し、さらに川田のロングシュートを決められてふり切られた。

〔ガス〕	得		〔自動車〕	得
福田	0	GK	西井	0
			富森	0
奥野	0	FP	香井	3
加地	4		川田	4
竹志	6		酒井	3
中村	1		堀江	5
長田	3		中西	0
水谷	5		平野	3
田坂	2		白坂	0
藤田	0		田村	0
			松尾	3
			杉元	4
	21 (2)	PT		25 (2)

（審・大宮 阪本）

本田技研熊本 30（13－12 17－16）28 中村荷役

〔戦評〕立ち上がり両チームとも

激しい闘志のぶつかり合い。双方ともに警告者3名ずつを出すやや荒っぽい試合となったが、観客を湧かす好ゲームとなった。中村荷役はよく走り、点を取れば、本田技研熊本も山口、川崎の若い二人が速攻で返した。前半は、本田熊本が13—12と1点リードして終了。

後半に入って本田熊本はディフェンスが良くなり、後半5分で18—14と4点リード。しかし中村・三尾の鋭いロングシュートなどで20分には25—24と1点差にまで追い上げる。しかし、本田GK中尾の好キーピングとベテラン佐伯がよくチームをまとめ、30—28で逃げ切った。

〔中村〕	得		〔熊本〕	得
石井	0	GK	中尾	0
飯塚	0		坂本	0
三尾	6	FP	矢野	0
塚田	2		荒田	4
中村	0		三代	3
大木	2		松村	1
下戸成	8		田中	5
松本	0		山口	9
堀戸	4		川崎	6
池田	5		長野	0
飯田	1		佐伯	1
坂口	0		長野	1
		（審・切通、大村）		
(6)	28	PT	(4)	30

◇**2月26日（日）徳島・徳島市立体育館**

トヨタ車体 37（19—13、18—10）23 日鉄建材

〔戦評〕両チームとも立ち上がりから動きが良く、スピーディなゲーム展開で一進一退。10分過ぎよりトヨタ車体がツートップのディフェンスでよく守り、GKの好守もあり、徐々に差を広げていった。

後半に入り、日鉄建材も追い上げようと全員でよく動いたが、差はちぢまらず、トヨタ車体の快勝であった。

〔日鉄〕	得		〔車体〕	得
井上	0	GK	宮田	0
			村林	0
霜村	0	FP	吉續	4
杉本	11		長野	11
池辺	5		君島	6
上山	3		河合	0
外山	3		藤長	5
清原	0		松井	9
古川	0		平野	0
若本	0		久保山	1
王嶋	1		井上	0
			崎野	1
		（審・武智、松原）		
(1)	23	PT	(1)	37

◇**2月26日（日）京都・京都体育館**

三景 32（22—8、10—14）22 豊田自動織機

〔戦評〕前半、豊田自動織機は蟹江、諫山らのサイドシュートがよく決まり、三景も福士のミドルで応戦するがミスが目立ち、豊田が4点リードして前半を折り返す。

後半5分、ようやくエンジンのかかり出した三景が速攻で連続得点をあげて逆転、逆にじりじりと引き離す。その後も豊田は思うようにペースをつかめず、結局10点の大差をつけて三景が勝つ。

〔自織〕	得		〔三景〕	得
柴田	0	GK	北川	0
中村	0		長橋	0
蟹江	7	FP	田村	5
奥畑	1		近藤	4
大野	5		福永	0
諫山	5		福士	9
山内	3		西川	6
笹嶺	0		斉藤	4
新田	0		大谷	0
鎌田	1		小金山	4
杉浦	0		木原	0
		（審・福井、田中）		
(2)	22	PT	(4)	32

◇**2月27日（日）熊本・本田技研熊本体育館**

トヨタ自動車 39（21—12、18—14）26 本田技研熊本

〔戦評〕前半5分まで本田技研熊本はポストとペナルティで3—1と先行したが、トヨタ自動車はキャプテン川田を中心とする早いパスで本田のディフェンスを思うように崩し、ポストシュート、サイドシュートを確実に決め、20分には12—11と逆転。一方本田は、若手の川崎が得意のミドルシュートで食い下がるが、スピードに勝るトヨタが前半18—14と得点を広げた。

後半、本田はトヨタの川田をマンツーマンでマークしたものの、パスミス、3回の退場者を出し、気合の入ったトヨタに速攻とミドルシュートを連発され、39—36と大差で敗れる。

〔熊本〕	得		〔自動車〕	得
中尾	0	GK	西井	0
宮本	0		富森	0
矢野	0	FP	香井	7
荒田	3		川田	8
三代	2		酒井	5
松村	4		堀江	8
田中	2		中西	0
山口	2		平野	0
川崎	10		白坂	0
長野	0		田村	0
佐伯	3		松尾	5
長野	0		杉元	6
		（審・大宮、阪本）		
(1)	26	PT	(2)	39

大阪ガス 30（9—14、21—9）23 中村荷役

〔戦評〕前半、パスワークにもたつきのある中村荷役に対し、大阪ガスは小さく早いパスでつなぎ、中村のディフェンスを崩す。15分には速攻、ペナルティーなどで着実に得点を加えた大阪ガスが10—5と引き離し始める。さらに、大阪ガスGK福田の好守で中村のシュートを防ぎ、そこからの速攻で加点、21—9と前半で大差がつく。

後半、やっと調子を取り戻した中村は、三尾のロングシュートと速攻で加点するが、大阪ガスも加地のロングシュートなどで得点、なかなか差はちぢまらず、30—23で大阪ガスが勝つ。

〔中村〕	得		〔ガス〕	得
石井	0	GK	福田	0
飯坂	0			
三尾	5	FP	加地	7
塚田	1		竹志	0
中村	4		中村	3
大木	1		長田	4
下戸成	8		水谷	7
松本	0		田坂	3
堀戸	3		藤田	6
池田	0			
飯田	0			
坂口	1			
		（審・切通、大村）		
(3)	23	PT	(3)	30

◇**3月4日（土）埼玉・戸田スポーツセンター**

大阪ガス 31（16—17、15—10）27 日鉄建材

〔戦評〕両チームともにスピーディは攻防をくり返し、立ち上がりは日鉄建材のリード。しかし、やや単調になった攻撃を読まれ、大

阪ガスが速攻、カットインからの得点で逆転。前半は15—10と大阪ガスのリードで終了。
後半、日鉄建材が立ち上がり2点を連取、3点差にまで詰め寄るが、どうしても追いつくことができず、大阪ガスが逃げ切った。

得	〔ガス〕		〔日鉄〕	得
0	福田	GK	川上	0
0	奥野	FP	霜村	7
6	加地		杉本	4
3	竹志		山口	10
4	中村		上山	3
2	長田		外山	3
7	水谷		清原	0
4	田坂		古川	0
5	藤田		若本	0
			玉嶋	
31	(4)	PT	(4)	27

（審・田中、伊藤）

トヨタ車体 26〔11—11 15—11〕22 本田技研熊本

〔戦評〕前半立ち上がり、本田技研熊本が松村のミドルシュートを中心にポスト、サイドと加点し、トヨタ車体のミスもあり一方的な展開になるかと思われたが、本田の退場のスキをつきリズムをつかんだトヨタが追い上げ同点で前半を終了。
後半は勢いの出たトヨタが速攻、ミドルで4点を連取したが、前半とは逆に退場者が出たところを本田が追い上げたが、トヨタGKの活躍もあり、26—22でトヨタ車体が逃げ切った。

得	〔車体〕		〔熊本〕	得
0	宮田	GK	中尾	0
0	村林		宮本	0
4	吉績	FP	矢野	1
3	長野		荒田	1
9	君島		三代	5
0	河合		松村	2
3	藤長		田中	0
7	松井		山口	7
0	平川		川崎	5
0	久保山		長野	0
0	井上		佐伯	1
0	崎野		長野	0
26	(1)	PT	(1)	22

（審・岩本、池田）

◇3月12日（日）
愛知・名古屋市総合体育館

中村荷役 28〔14—12 14—11〕23 豊田自動織機

〔戦評〕中村荷役は立ち上がり3分、堀戸の速攻で先制。その後も三屋のロング、速攻などで得点を重ねる。一方豊田自動織機は、諫山のサイドシュートを中心によく反撃し、前半を14—12と中村のリードで折り返す。
後半も一進一退の激しい攻防が続いたが、中村は大木のカットイン、ミドルなど自在なプレーが光り、粘る豊田をふり切った。

得	〔中村〕		〔織機〕	得
0	石井	GK	柴田	0
0	飯塚		中村	0
5	三尾	FP	蟹江	2
0	塚田		奥畑	8
0	中村		大野	3
6	大木		諫山	4
4	下戸成		山内	2
2	松本		笹嶺	0
5	堀戸		新田	0
3	池田		鎌田	4
1	飯田		杉浦	0
2	坂口			
28	(3)	PT	(0)	23

（審・若田、杉山）

◇3月12日（日）
栃木・栃木総合体育館

三景 37〔17—17 20—18〕35 トヨタ自動車

〔戦評〕開始早々三景が一方的に4—1とした後のノーマークシュートでトヨタGKに止められ、流れが変わった。三景にとっては一気に勝負をつける大事な場面であったが、これが後半まで試合がもつれる原因の一つと言える。この後、両チームとも速攻を出すが、つなぎのパスが不正確なため、選手が動く割にはチャンスが生まれず、ロースコアーのゲームに終始するかに見えたが、次第にパスが通りだすにつれスピーディな展開となり、前半を17—17で終了した。
後半になっても、両チームとも速攻主体のオフェンスが続き、得点の取り合いとなった。しかし、トヨタGKの再三のファインプレーにもかかわらず三景が終盤ゴールを決め逃げ切った。

得	〔三景〕		〔自動車〕	得
0	北川	GK	西井	0
0	長橋		富森	0
3	田村	FP	香井	10
2	近藤		川田	5
0	福永		堀江	6
11	福士		中西	4
7	西川		平野	0
6	斉藤		白坂	0
0	大谷		田村	0
8	小金山		松尾	7
			石本	0
			杉本	3
37	(2)	PT	(3)	35

（審・小西、滝口）

〔順位〕
①トヨタ自動車（11勝1分2敗）
②三　景（11勝1分2敗）
③トヨタ車体（8勝1分5敗）
④本田技研熊本（7勝2分5敗）
⑤中村荷役運輸（6勝2分6敗）
⑥豊田自動織機（4勝1分9敗）
⑦大阪ガス（4勝10敗）
⑧日鉄建材（1勝13敗）

〔最多得点賞〕
上山和弘（日鉄建材）100点
〔最高得点率〕
山口康照（本田熊本）0・777
〔ペナルティー得点賞〕
蟹江文崇（豊田自動織機）32点
〔敢闘賞〕
斉藤成行（豊田自動織機）
水谷　弘（大阪ガス）
川田和彦（トヨタ自動車）

2部女子

ジャスコが混戦を抜け出す

◇1月22日（日）
山形・東根市民体育館

JUKI 22〔13—12 9—8〕20 ムネカタ

〔戦評〕両チームとも立ち上がりからミスの多い展開。ムネカタが5分までに5—3とリードを奪うが中盤からJUKIが追い上げ27

分過ぎに追いつき、そのまま逆転。後半もともにシュートミスが多く一進一退の展開であったが、相手ミスをより多く得点に結びつけたJUKIが僅差ながら逃げ切った。

	〔ムネカタ〕	得	〔JUKI〕	得
GK	遠藤	0	大角	0
GK	我妻	0		
FP	伊藤	2	石塚	2
FP	川名	6	石井	2
FP	大田	2	佐藤	3
FP	桜井	4	上田	3
FP	高橋	5	嶋田	5
FP	上遠野	1	内山	1
FP	皆川	0	樋口	0
FP	千葉	0	伊藤	2
FP			古谷	3
FP			熊谷	1
PT	(4)	20	(3)	22

（審・星川、佐東）

◇1月28日（土）
岐阜・岐阜県民体育館

ジャスコ19〔7—7 12—11〕18ソニー国分

〔戦評〕前半立ち上がり、ソニーのフットワークを使ったディフェンスに、ジャスコはシュートミスをくり返し、1—6と大きくリードされた。しかし、速攻、サイドシュートなどで徐々に点差を詰め、7—7の同点で前半終了。

後半に入ると、どちらもシュートミスが多く、一進一退のゲームとなったが、地力に勝るジャスコがせり勝った。

	〔ソニー〕	得	〔ジャス〕	得
GK	阿多石	0	小深沢	0
GK			吉田	0
FP	斜木	1	服部	1
FP	宮原	4	佐々木	2
FP	白石	0	石田	1
FP	東郷	3	近藤	7
FP	山口	3	渡辺	1
FP	藤元	7	常田	0
FP	楠本	0	川井	2
FP	永尾	0	池田	5
FP			寿系	0
FP			今井	0
PT	(2)	18	(3)	19

（審・杉本、工藤）

◇1月29日（日）
大阪・大阪市立中央体育館

北国銀行20〔10—10 10—7〕17ブラザー工業

〔戦評〕序盤・双方とも固さからかイージーミスが目立ち、ロースコアーの展開。お互いシュートは放つもののなかなか決定力がないまま一進一退。互角のまま前半を終了。

後半に入り先手を取ったのはブラザー。5分過ぎに13—11と2点をリードするが、10分には同点。その後、ブラザーがなかなか加点できず、走力に勝る北国がじりじりと引き離し、結局3点差をつけて逃げ切った。

	〔ブ工〕	得	〔北国〕	得
GK	大薮	0	木戸	0
GK	岡本	0	岩井	0
FP	荒木	3	上田	1
FP	末永	2	林	2
FP	原田	1	丹後	0
FP	道上	5	松田	4
FP	松尾	0	北川	8
FP	大久保	2	川崎	1
FP	野田	3	塙	0
FP	甲斐	1	北川	1
FP	進藤	0	金	3
FP	小栗	0	森	0
PT	(3)	17	(5)	20

（審・島崎、浅井）

◇2月5日（日）
熊本・熊本県立総合体育館

ブラザー工業23〔13—8 10—2〕10ソニー国分

〔戦評〕前半立ち上がりからブラザーは果敢に攻めるが、ソニーの荒いディフェンスに阻まれてなかなか得点できない。一方ソニーもノーマークシュートをブラザーのGKの薮の好守にあい、チャンスをつぶすといった展開。前半は単調なシュートに多かったソニーに対し確実にシュートを決めたブラザーがリードして終了。

後半開始後も、一進一退が続くが、互いに雑なプレーが目立つようになる。その後も単発のシュートやシュートミスがあいついで出る。結局、ディフェンスの甘さの目立ったソニーに対し、ポストシュート、ペナルティースローを確実にものにしたブラザーに分があった。

	〔ソニー〕	得	〔ブ工〕	得
GK	阿多古	0	大薮	0
GK			岡本	0
FP	斜木	0	荒木	5
FP	宮原	1	末永	4
FP	白石	0	原田	5
FP	東郷	1	道山	3
FP	山口	0	松尾	0
FP	藤元	6	田中	0
FP	楠本	0	野田	3
FP	永尾	2	甲斐	3
FP			進藤	0
FP			小栗	0
PT	(3)	10	(5)	23

（審・大村、切通）

◇2月5日（日）
兵庫・神戸市立神戸中央体育館

JUKI24〔11—12 13—9〕21北国銀行

〔戦評〕前半立ち上がり、両チームともに動きが固く、初得点は4分過ぎにJUKIがようやくあげる。その後、JUKIが着々と加点、10には7—2と大きくリードを奪った。しかし、ここから北国がリズムを取り戻し、相手の攻撃を止めるとともに速い攻めで前半終了間際に逆転、12—11と1点をリードして折り返す。

後半は、序盤は全く一進一退の展開だったが、中盤から北国の攻めがリズムを失い、JUKIが逆転、そのまま逃げ切った。

	〔北国〕	得	〔JUKI〕	得
GK	木戸	0	大角	0
GK	岩井	0		
FP	上田	4	石塚	0
FP	林	1	石井	1
FP	丹後	2	佐藤	2
FP	松田	4	上田	5
FP	北川	8	嶋田	5
FP	川崎	1	内山	0
FP	塙	0	樋口	0
FP	北川	0	伊原	3
FP	金	1	古谷	6
FP	森	0	熊谷	2
PT	(2)	21	(1)	24

（審・大村、切通）

◇2月5日（日）
静岡・草薙総合運動場体育館

ジャスコ34〔14—9 10—4〕13ムネカタ

〔戦評〕ムネカタはスピードのあるフェイントローリングでカットインを狙う作戦だが、ジャスコの速く、リズムのあるディフェンスにあい、ミスが目立つ。それをジャスコはうまく速攻につなげて加点、ジャスコはセットでも池田のステップ、近藤、川井のサイドなど多数な攻めで前半を14—9とリ

ード。
　後半立ち上がり、両チームとも雑な攻めでミスが目立ち、3分間得点なし。5分過ぎにそれまで好守が光るムネカタGK遠藤が負傷退場すると、ジャスコはGK小深田の好守から速攻を連発し、一気にエンジン全開、佐々木、渡辺のロングも出てムネカタを突き放した。

得	〔ジャスコ〕		〔ムネカタ〕	得
0	小深田	GK	遠藤	0
0	吉田		我妻	0
1	服部	FP	伊藤	2
4	佐々木		川名	2
3	石田		太田	1
1	近藤		桜井	5
3	渡辺		高橋	0
8	川井		上遠野	3
8	池田		皆川	0
4	東出			
0	稲田			
2	今井			
34	(7)	PT	(3)	13

（審・細沢　太田）

◇2月18日（土）茨城・岩井総合体育館

北国銀行 35〔19—6, 16—9〕15 ソニー国分

〔戦評〕先取点は、北国がPTでとる。10分には5—1と地力に勝る北国がリードする。11分にはソニー斜木の退場の間に北国が2点を連取、その後も北国が金のチャンスメーカーとしての活躍などで7点をリードして前半を終了。
　後半もGK木戸の好守もあって北国のペースは変わらず、速攻で得点を重ね、15分には北国の堅いディフェンスを崩せず、得点は徐々に広がる。残り6分で北国はメンバーを切り替えする余裕を見せて大勝した。

得	〔北国〕		〔ソニー〕	得
0	木戸	GK	阿多石	0
0	岩井			
1	上田	FP	斜木	0
5	林		宮原	2
3	丹後		白石	0
6	松田		東郷	3
9	北川		山口	0
1	塙		藤元	6
3	北川		楠本	1
6	金		永尾	3
0	鈴木			
35	(3)	PT	(3)	17

（審・雨谷　福田）

◇2月18日（土）三重・ジャスコ体育館

ジャスコ 27〔11—12, 16—10〕22 JUKI

〔戦評〕前半10分までは1点を争う互角のゲーム展開であったが、ジャスコに速攻が出始めてから一気に差が開いた。
　後半に入るとジャスコの攻守のリズムが悪くなり、佐藤のロングシュート、古谷のカットインなどでJUKIが追い上げたが、今一歩及ばなかった。

得	〔ジャスコ〕		〔JUKI〕	得
0	小深田	GK	大角	0
0	吉田			
3	服部	FP	石塚	0
5	佐々木		石井	1
3	石田		佐藤	8
5	近藤		上田	4
4	渡辺		嶋田	3
0	川井		内山	0
0	武田		伊原	0
7	池田		古谷	0
0	寿系		熊谷	2
0	今井			
27	(5)	PT	(5)	22

（審・杉本　王田）

◇2月19日（日）愛知・半田市体育館

ブラザー工業 33〔13—8, 20—5〕13 ムネカタ

〔戦評〕早い展開で始まり、ブラザーの荒木、道上を中心とした攻撃にムネカタは防戦一方になってしまい、15分過ぎには10点の大差がついてしまった。その後もブラザーは速攻などで得点を重ね、勝負を前半で決めてしまった。ムネカタは、フローターの攻撃が止められ、ポストとの攻撃ができず、ディフェンスも前に詰め遅れが目立った。
　後半、ブラザーはメンバーを変えて臨んだため攻撃がチグハグになり一進一退となった。しかし、10分過ぎから荒木、道上らを入れ、そのまま逃げ切った。

得	〔ブ工〕		〔ムネカタ〕	得
0	大藪	GK	遠藤	0
0	岡本		我妻	0
8	荒木	FP	伊藤	0
1	末永		川名	5
7	道上		太田	1
0	松尾		桜井	5
1	大久保		高橋	1
8	野田		上遠野	1
2	甲斐		皆川	0
2	進藤			
1	小栗			
33	(5)	PT	(1)	13

（審・神谷　阪本）

◇2月26日（日）徳島・徳島市立体育館

ソニー国分 30〔16—9, 14—8〕17 ムネカタ

〔戦評〕両チームともにハンドリングミス、シュートミスなど固さのとれない滑り出しであった。10分を過ぎた頃からソニーが速攻を含めて4点を連取、先にペースをつかんだ。一方ムネカタは、長身桜井をポストに置いて攻撃をしかけるが、ソニーの堅いディフェンスに阻まれて得点がのびず、14—8で前半を折し返す。
　後半に入っても、ソニーはキャプテン藤元を中心にコンビプレーや速攻で得点を重ね、大差をつけて勝った。

得	〔ソニー〕		〔ムネカタ〕	得
0	阿多石	GK	遠藤	0
			我妻	0
3	斜木	FP	伊藤	1
3	宮原		川名	2
0	白石		太田	4
2	東郷		桜井	4
5	山口		高橋	2
12	藤元		上遠野	3
0	楠本		皆川	1
5	永尾			
30	(7)	PT	(4)	17

（審・中川　岡本）

ジャスコ 29〔17—10, 12—8〕18 北国銀行

〔戦評〕前半、渡辺のロングシュートで先行したジャスコは、その後もGK小深田が北国銀行のシュートを阻止、速攻につなげて確実に得点したのに対し北国は20分に相手に退場者が出たチャンスを生かすことができなかった。
　後半、北国は松田のパスカットで得点、リズムに乗るかと思われたが、ジャスコのスピードにディフェンスがついていけず、得点差を詰めることができなかった。

〔北国〕	得		〔ジャスコ〕	得
木戸	0	GK	小深田	0
岩井	0	GK	吉田	0
上田	0	FP	服部	1
林	0	FP	佐々木	1
丹後	0	FP	石田	2
松田	6	FP	近藤	6
北川	7	FP	渡辺	6
川崎	4	FP	常石	1
塙	0	FP	川井	5
北川	0	FP	武田	0
金	1	FP	池田	6
森	0	FP	東出	1
	18	PT (3) / (7)		29

（審・伊藤・高橋）

◇2月26日（日）
京都・京都市体育館
ブラザー工業20（12―10、8―9）19JUKI

〔戦評〕開始直後より1点を争う緊迫したゲームとなる。JUKIは佐藤のカットイン、ミドルを、ブラザーは荒木、末永のミドルを軸に得点を重ねていく。前半終了までシーソーゲームが続いた。

後半もシーソーゲームが続き、ブラザーのパスミスを確実に得点に結びつけたJUKIがやや有利かと思われたが、土壇場で得たPTを確実に決めたブラザーが1点差で勝利を得た。

〔JUKI〕	得		〔ブ工〕	得
大角	0	GK	大藪	0
		GK	岡本	0
石塚	0	FP	荒木	9
石井	0	FP	末永	2
佐藤	7	FP	原田	0
上田	3	FP	道上	3
嶋田	5	FP	松尾	0
内山	0	FP	田中	0
伊原	1	FP	大久保	1
古谷	1	FP	野田	5
大林	0	FP	甲斐	0
熊谷	2	FP	小栗	0
	19	PT (4) / (7)		20

（審・茨木・堀田）

◇3月4日
埼玉・戸田スポーツセンター
北国銀行39（20―8、19―5）13ムネカタ

〔戦評〕前半、北国銀行はパスカットからの速攻などを連続して決め、13分には10―3として試合を決めてしまった。ムネカタはポストへのパスを読まれ、苦しい展開となる。

後半に入っても、北国は上田、松田の速攻、丹後のミドルなどで差を広げ、39―13で勝利。ムネカタは大型ポストを生かし切れなかった。

〔ムネカタ〕	得		〔北国〕	得
遠藤	0	GK	木戸	0
我妻	0	GK	岩井	0
伊藤	0	FP	上田	1
川名	2	FP	林	7
太田	3	FP	丹後	7
桜井	6	FP	松田	6
高橋	1	FP	北川	6
上遠野	0	FP	川崎	3
皆川	1	FP	塙	2
菅野	0	FP	北川	3
		FP	金	2
		FP	森	2
	13	PT (4) / (2)		39

（審・石井・太利）

◇3月11日（土）
愛知・名古屋市総合体育館
ブラザー工業16（7―8、9―5）13ジャスコ

〔戦評〕お互いにプレーを知りつくしている両チームの対戦となった。ゲームはGKの好守、またPTミスもあり、15分を経過して2―2のロースコアーの展開。その後ジャスコは川井の連続得点で引き離したかに見えたが、対するブラザーも野田のサイド、道上のポストで反撃する。

後半は、ディフェンスに粘りの出てきたブラザーがペースをつかみ、攻撃でもポストプレーを中心に得点を重ねる。ジャスコも必死に追いすがるが及ばず、無念の涙を飲んだ。

〔ジャ〕	得		〔ブ工〕	得
小深田	0	GK	大藪	0
吉田	0	GK	岡本	0
服部	0	FP	荒木	3
石田	1	FP	末永	1
近藤	2	FP	原田	2
渡辺	1	FP	道上	2
常石	0	FP	松尾	1
川井	4	FP	大久保	1
池田	5	FP	野田	6
東出	0	FP	甲斐	0
寿系	0	FP	小栗	0
今井	0	FP		
	13	PT (3) / (3)		16

（審・若田・杉山）

◇3月12日（日）
栃木・栃木総合体育館
JUKI28（18―13、10―12）25ソニー国分

〔戦評〕ソニー国分の再三の当りの激しいディフェンスに対し、JUKIはシュートの正確さを欠き、得点が伸び悩み、それに対しソニーはJUKIのミスしたボールを拾って速攻主体のオフェンスにより先行し、前半を終了した。

後半になり、JUKI・佐藤のPTを含めた得点が続き始めて逆転し、その後は追いつ追われつの展開となった。中盤から運動量のあるJUKIのオフェンスに対して対応の鈍ってきたソニーに対し立ち上がりのポスト、サイドのパスが連続して通り始め、得点差が広がり始め、そのまま終了した。

〔ソニー〕	得		〔JUKI〕	得
阿多石	0	GK	大角	0
斜木	2	FP	石塚	1
宮原	5	FP	佐藤	12
白石	0	FP	上田	4
東郷	6	FP	嶋田	1
山口	1	FP	内山	0
藤元	8	FP	樋口	1
楠本	3	FP	伊原	1
永尾	0	FP	古谷	5
		FP	大林	3
		FP	熊谷	0
	25	PT (4) / (6)		28

（審・大出・住森）

〔順位〕
①ジャスコ（9勝1敗）
②北国銀行（7勝3敗）
③ブラザー工業（7勝3敗）
④JUKI（4勝1分5敗）
⑤ソニー国分（2勝1分7敗）
⑥ムネカタ（10敗）

〔最高得点賞〕
野田真代（ブラザー工業）55点

〔最高得点率〕
野田真代（ブラザー）0・705

〔ペナルティー得点賞〕
北川真弓（北国銀行）

〔敢闘賞〕
松田史佳（北国銀行）
宮原久美子（ソニー国分）
藤元貴子（ソニー国分）

各地の記録から・・・

東北

第38回青森県高校秋季選手権

（11月19、20日／野辺地町立体育館ほか）

〈男子〉

▼1回戦

青森南 39－15 横浜分校
青森東 24－6 三本木
柏木農 27－24 青森山田
今別 13－12 五所川原
青森商 37－12 十和田工

▼2回戦

野辺地 26－17 青森南
青森東 34－14 柏木農
鰺ヶ沢 22－21 今別
青森商 33－21 青森

▼準決勝

野辺地 20－19 青森東
青森商 45－15 鰺ヶ沢

▼決勝

青森商 29－17 野辺地

〈女〉

▼1回戦

野辺地 15－7 青森商
青森西 33－4 野辺地工
三本木 27－8 青森東
青森中央 30－3 今別

▼準決勝

青森西 12－11 野辺地
青森中央 19－14 三本木

▼決勝

青森西 19－13 青森中央

第4回東根カップ選手権

（12月3、4日／東根市民体育館）

〈一般男子〉

▼1回戦

真室川ク 23－13 尾花沢ク
大石田矢作会 29－17 新庄クRC
山形新球会 22－13 新庄ク
山形大 41－5 東根ク

▼準決勝

真室川ク 19－18 大石田矢作会
山形新球会 20－17 山形大

▼決勝

山形新球会 23（7－11、12－8、2－1、2－3、3 PTC 2）23 真室川ク

〈一般女子〉

▼1回戦

山形女子教員 35－8 桜華ク

▼決勝

米沢女高 20（12－7、8－7）14 山形女子教員
OG会

〈少年男子〉

▼1回戦

北村山高B 22－7 山本学園高
東根工高A 19－13 新庄工高
北村山高A 28－11 山形工高B

▼2回戦

北村山高B 17－15 山形工高A
東根工高B 23－16 真室川高
東根工高A 26－6 寒河江工高
北村山高A 23－17 日大山形高

▼準決勝

東根工高B 18－13 北村山高B
北村山高A 20－11 東根工高A

▼決勝

北村山高A 23（10－3、13－5）8 東根工高B

〈少年女子〉

▼1回戦

北村山高B 20－7 山本学園高

▼準決勝

日大山形高 19－10 北村山高B
北村山高A 11－9 米沢女高

▼決勝

日大山形高 10（6－4、4－4）8 北村山高A

〈中学男子〉

▼決勝

東根一中A 23（10－3、13－6）9 東根一中B

〈中学女子〉

東根一中A 8（2－1、6－6）7 東根一中B

〈小学男子〉

▼1回戦

高崎小 12－8 神町ハンドク
東根ハンドスポ少 7－4 小田島ハンドスポ少

▼決勝

東根ハンドスポ少 12（5－4、7－3）7 高崎小

〈小学女子〉

▼1回戦

東根ハンドスポーツ 5－4 高崎小

▼決勝

小田島ハンドスポ少 8（1－0、7－1）1 東根ハンドスポ少

関東

東京都高校新人大会

（日程、場所不明）

〈男子〉

▼予選リーグ

○ア組

東大和南 22－10 創価
東大和南 20－11 五商
創価 21－9 五商

○イ組

学大附 10－9 青山
学大附 23－7 大崎
青山 23－6 大崎

○ウ組

錦城 25－18 小平南
錦城 27－22 府中東
小平南 24－17 府中東

○エ組

富士 26－12 広尾
富士 10－6 世田谷工
広尾 11－7 世田谷工

○オ組

府中 23－19 久留米西
府中 14－11 昭和一工
久留米西 24－15 昭和一工

○カ組

豊多摩 20－17 大泉
豊多摩 18－13 雪谷
大泉 25－13 雪谷

○キ組

保谷 22－16 福生
保谷 21－16 科技
福生 21－19 科技

○ク組

目黒 18－11 東
目黒 27－3 南
東 20－6 南

○ケ組

三鷹 28－18 野津田
三鷹 45－2 山崎
野津田 30－7 山崎

○コ組

成城 25－7 白鴎
成城 36－9 小石川
白鴎 14－13 小石川

○サ組

八王子東 28－18 国分寺
八王子東 32－13 武蔵
国分寺 27－8 武蔵

○シ組

園芸 22－19 篠崎
園芸 キケン 青山学院
篠崎 キケン 青山学院

○ス組

江東工 18－7 新宿
江東工 33－2 荻窪
新宿 16－9 荻窪

○セ組

南野 21－12 館
南野 31－6 昭和
館 27－5 昭和

○ソ組

開成 29－9 筑波大駒場

開成 31－11 光丘
筑波大駒場 14－5 光丘

○タ組
桜美林 15－11 片倉
桜美林 14－9 忠生
片倉 15－15 忠生

○チ組
東京 25－6 西
東京 36－4 本所
西 24－7 本所

○ツ組
日野台 21－16 府中西
日野台 33－4 稲城
府中西 30－3 稲城

○テ組
早実 18－13 武工大附
早実 23－7 上野
武工大附 23－7 上野

○ト組
秋川 17－13 南平
秋川 24－17 永山
南平 14－8 永山

○ナ組
井草 22－6 蒲田
井草 キケン 葛西南
蒲田 キケン 葛西南

○ニ組
駒大高 25－12 江北
駒大高 28－10 城西
江北 17－9 城西

○ヌ組
国立 52－18 武蔵村山東
国立 22－8 田無
武蔵村山東 30－21 田無

○ネ組
早大学院 29－12 葛飾野
早大学院 25－13 深川
葛飾野 24－19 深川

○ノ組
秋留台 15－10 久留米
明星学園 17－14 秋留台
久留米 23－19 明星学園

○ハ組
日大二 12－6 安田学園
日大二 32－13 南葛飾
安田学園 19－11 南葛飾

○ヒ組
東京菅生 28－11 清瀬
東京菅生 21－15 砂川
清瀬 24－19 砂川

○フ組
墨田川 26－10 城北
墨田川 30－7 大泉丘
城北 27－5 大泉丘

○ヘ組
東村山 37－13 南多摩
東村山 28－11 武蔵野北
南多摩 31－8 武蔵野北

○ホ組
修徳 29－12 石神井
修徳 22－6 足立
石神井 16－10 足立

○マ組
立川 18－14 小金井北
立川 20－15 武蔵村山
小金井北 27－15 武蔵村山

○ミ組
小岩 34－9 大森東
小岩 47－2 高島
大森東 26－8 高島

○ム組
東大和 25－16 富士森

○メ組
江戸川 23－7 明正
江戸川 28－5 昭和一
明正 キケン 昭和一

▼決勝トーナメント1回戦
学大附 17－9 東大和南
目墨 26－12 保谷
成城 28－18 三鷹
八王子東 25－13 園芸
東京 42－6 桜美林
日野台 25－11 早実
早大学院 28－24 国立
日大二 17－7 秋留台
東京菅生 24－10 墨田川
東大和 19－11 江戸川

▼2回戦
明星 33－10 学大附
錦城 20－19 富士
府中 23－13 豊多摩
日野 20－11 目黒
神代 27－22 成城
八王子東 28－19 江東工
開成 21－17 南野
東京 29－5 中大附
日体荏原 35－16 日野台
井草 27－22 秋川
駒大高 18－17 早大学院
農大一 17－15 日大二
調布北 25－11 東京菅生
東村山 22－21 修徳
小岩 9－8 立川
拓大一 20－10 東大和

▼3回戦
明星 38－10 錦城
府中 10－9 日野
八王子東 19－15 神代
東京 32－13 開成
日体荏原 30－13 井草
農大一 17－15 駒大高
東村山 20－16 調布北
拓大一 21－7 小岩

▼準々決勝
明星 32－10 府中
東京 28－7 八王子東
日体荏原 33－16 農大一
拓大一 31－13 東村山

▼準決勝
明星 19－13 東京
拓大一 17－16 日体荏原

▼3位決定戦
日体荏原 21－14 東京

▼決勝
明星 16（6－10, 10－3）13 拓大一

〈女子〉

▼予選リーグ

○あ組
田無 19－8 砂川
田無 15－1 野津田
砂川 14－4 野津田

○い組
小岩 18－11 大崎
小岩 25－10 八雲
大崎 11－5 八雲

○う組
日野 33－4 武蔵村山東
日野 22－0 羽村
武蔵村山東 33－4 羽村

○え組
菊華 20－5 目黒
菊華 キケン 篠崎
目黒 キケン 篠崎

○お組

館	6－5	東大和南
館	12－5	府中西
東大和南	16－4	府中西

○か組

学大附	13－1	西
学大附	キケン	本所
西	キケン	本所

○き組

日野台	12－5	国立
日野台	10－0	府中東
国立	13－4	府中東

○く組

井草	15－4	墨田川
井草	キケン	荻窪
墨田川	キケン	荻窪

○け組

明星学園	11－7	富士森

○こ組

立教女	6－5	豊多摩
立教女	キケン	三商
豊多摩	キケン	三商

○さ組

小平	12－5	清瀬
小平	キケン	吉祥女
清瀬	キケン	吉祥女

○し組

東大和	14－8	武蔵野女
東大和	12－9	保谷
武蔵野女	18－10	保谷

○す組

農大一	12－6	日大二
農大一	19－7	葛飾商
日大二	19－9	葛飾商

○せ組

五商	11－10	国分寺
五商	11－8	東村山
国分寺	12－8	東村山

○そ組

園芸	17－4	一商
園芸	8－4	白鴎
一商	7－5	白鴎

○た組

南野	10－8	八王子東
南野	13－5	調布北
八王子東	13－6	調布北

○ち組

府中	22－1	武蔵野北
府中	キケン	農業
武蔵野北	キケン	農業

○つ組

文華女	23－5	共立二
文華女	22－11	武蔵
共立二	13－5	武蔵

○て組

葛飾野	15－3	広尾
葛飾野	10－5	雪谷
広尾	10－9	雪谷

○と組

福生	17－9	桐朋
福生	21－6	小金井北
桐朋	37－4	小金井北

○な組

富士	10－6	江戸川
富士	13－2	上野
江戸川	11－9	上野

▼決勝トーナメント1回戦

小岩	14－11	田無
菊華	13－8	日野
青山学院	13－3	館
神代	17－2	学大附
日野台	14－7	井草
明星学園	10－4	立教女
石神井	22－3	小平
東大和	17－7	農大一
五商	16－2	園芸
江東商	23－5	南野
立大杉並	9－5	府中
文華女	18－10	葛飾野
富士	9－0	福生

▼2回戦

佼成女	27－10	小岩
菊華	13－11	青山学院
神代	16－4	日野台
石神井	14－5	明星学園
日体桜華	11－7	東大和
江東商	21－4	五商
文中杉並	15－10	文華女
藤村女	19－1	富士

▼3回戦

佼成女	26－11	菊華
石神井	18－10	神代
江東商	18－13	日体桜華
藤村女	21－11	文大杉並

▼準決勝

佼成女	13－11	石神井
江東商	20－13	藤村女

▼3位決定戦

石神井	15－13	藤村女

▼決勝

佼成女 28	16－7	12－9	16 江東商

近畿

和歌山県高校新人大会

（11月17～19日／新宮高校）

〈男子〉

▼1回戦

那賀	22－9	新宮
笠田	9－8	御坊商工
貴志川	23－9	新宮商
近大附	17－8	紀北農芸
箕島	14－13	耐久
県和歌山商	27－9	桐蔭
海南	18－18（2 PTC 1）	粉河
市和歌山商	34－5	和歌山東

▼2回戦

那賀	36－1	笠田
貴志川	25－13	近大附
箕島	19－10	県和歌山商
海南	19－7	市和歌山商

▼準決勝

那賀	23－12	貴志川
海南	24－19	箕島

▼決勝

那賀 24	14－2	10－6	8 海南

〈女〉

▼1回戦

貴志川	13－9	箕島
御坊商工	19－1	海南

▼2回戦

笠田	7－5	県和歌山商
新宮	21－0	新宮商
貴志川	11－11（5 PTC 4）	粉河
那賀	9－4	御坊商工

▼準決勝

笠田	17－5	貴志川
那賀	17－7	新宮

▼決勝

郡賀24（14－2、10－6）8笠田

奈良県高校新人大会

（11月19～23日／生駒市総合体育館）

〈男子〉

▼1回戦

郡山 10－8 富雄

▼2回戦

郡山 19－6 一条
生駒 23－14 橿原
畝傍 13－11 斑鳩
奈良 18－16 高田東
正強 27－7 上牧
添上 37－15 天理
東大寺 25－14 広陵
片桐 27－17 奈良工

▼3回戦

生駒 24－14 郡山
奈良 13－12 畝傍
正強 20－6 添上
東大寺 18－14 片桐

▼準決勝

奈良 15－14 生駒
正強 33－10 東大寺

▼決勝

正強30（13－7、17－1）8奈良

〈女子〉

▼1回戦

富雄 12－5 一条

▼2回戦

富雄 7－6 白藤
郡山 21－10 橿原
短大付 17－6 十津川

▼準決勝

生駒 13－5 片桐
郡山 13－8 富雄
生駒 12－8 短大付

▼決勝

郡山11（7－3、4－7）10生駒

九州

鹿児島県高校新人大会

（11月19～21日／隼人工高）

〈男子〉

▼予選リーグ

○A組

笠沙 21－15 志布志
鹿児島工 33－3 志布志
鹿児島工 27－7 笠沙

○B組

甲陵 15－12 隼人工
国分 19－8 頴娃
甲陵 18－13 国分
隼人工 10－10 頴娃

○C組

甲南 17－4 鹿児島商
出水 28－6 薩南工
出水 20－8 鹿児島商
薩南工 8－5 甲南

○D組

加治木 19－12 高専
鹿児島中央 16－9 加治木工
加治木 14－10 加治木工
鹿児島中央 24－14 高専

▼準々決勝

鹿児島工 45－10 薩南工
甲陵 18－12 加治木
出水 20－18 国分
鹿児島中央 22－12 笠沙

▼準決勝

鹿児島工 21－16 甲陵
鹿児島中央 17－16 出水

▼決勝

鹿児島工31（17－7、14－6）13鹿児島中央

〈女子〉

▼予選リーグ

鹿児島南 10－4 鹿児島中央
国分実 18－5 鹿児島中央
鹿児島南 10－5 国分実

○B組

奄美 9－4 串木野女
大島 25－6 串木野女
大島 17－8 奄美

○C組

鹿児島純心 27－13 出水
牧園 14－13 出水
鹿児島純心 12－8 牧園

▼準々決勝

牧園 10－9 奄美
大島 26－14 国分実

▼準決勝

鹿児島南 17－9 牧園
鹿児島純心 17－13 大島

▼決勝

鹿児島南13（7－2、6－3）5鹿児島純心

長崎県高校新人大会

（11月12～13日／島原農高）

〈男子〉

▼1回戦

日大高 51－13 大村
佼瓊浦 37－0 鹿町工
上五島 17－15 西彼
佐世保西 24－19 北陽台
波佐見 23－15 長崎南
口加 17－14 長崎北
長崎工 22－22 佐世保北（3 PTC 1）
佐世保商 33－25 西海

▼2回戦

日大高 37－4 波佐見
瓊浦 22－10 口加
上五島 23－19 長崎工
佐世保西 28－18 佐世保商

▼準決勝

日大高 32－9 上五島
瓊浦 27－8 佐世保西

▼決勝

日大商15（10－3、5－5）8瓊浦

〈女子〉

▼1回戦

佐世保北 35－4 島原農
有馬商 26－6 佐世保西
佐世保商 16－8 長崎北
聖和 19－7 日大高

▼準決勝

佐世保北 20－8 佐世保商
聖和 13－11 有馬商

▼決勝

聖和21（10－6、11－2）8佐世保北

未来をみつめる健康テクノ

asics

走る、跳ぶ、投げる。制空権を得るためのスカイハンド®。

より高い跳躍とより長い滞空時間。
よりコンパクトなテイクバックとスピーディなスローイング。
ここに至るには 地道な長い練習の日々と、
勝負に臨んでの集中力と爆発力が必要である。
この日のために努力を重ねてきた選手たちに――。
バイオメカニクスで育てられたウェアとシューズ。
アシックスよりおくります。


SKYHAND®

ASICS Handball Wear


asics® TIGER®

ASICS Handball Shoes

株式会社アシックス ●商品についてのお問い合わせは株式会社アシックス消費者相談室までどうぞ。〒650 神戸市中央区港島中町7丁目1番1 TEL(078)303-2233(専用)・(078)303-3333(大代表) 〒130 東京都墨田区錦糸4丁目10番11号 TEL(03)624-1814(専用)・(03)624-[illegible]221(大代表) ■®は㈱アシックスの登録商標です。

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二八四号
昭和四十年六月[illegible]第三種郵便物認可
平成一年三月二十五日 印刷
平成一年四月一日 発行
東京都渋谷区[illegible]一—一 編集兼
電話 代表 [illegible]六一
振替 東京 六[illegible]八三四八番 発行人
安藤純光
定価三百五拾円
(年間購読料三千三百円)